Ⅲ　介護教員講習会の専門分野に関すること

◆科目７　介護過程の展開方法Ａ（主な対象：新任、非常勤）

目的・ねらい	・介護福祉士養成教育における介護過程の位置づけを理解する。 ・介護過程の展開を軸とした介護実習や、介護実践の際に不可欠な支援方法であることを理解する。 ・「Ⅲ-8. 介護過程の展開方法Ｂ」研修を受講するためのレディネス形成ができる。
講　師	・上田　剛／河原医療福祉専門学校　介護福祉科
研修概要	(1) 概論：「介護過程とは」意義・目的及び、求められる介護福祉士像（専門職として自律的に介護過程の展開ができる）を示す。 (2) 小事例からの理解：小事例を使い介護過程の展開場面を紹介することにより、介護過程の展開を身近なものにする。（容易に想像できる事例を使用）
時間数	30 分
参考文献	・共通 1)「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書　～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・共通 2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通 3)「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」 ・共通 4)「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書」

介護過程について聞いたことはあるがよく分からない、説明できない等「新任教員・非常勤教員」向けに作成したものであり、詳しい説明については「科目の目的」にもある「介護過程の展開方法Ｂ」へつなげるための内容としました。そのため専任教員にとっては当たり前の内容であるため、本科目の対象者が「新任教員・非常勤教員」であることをご理解頂きたいです。「介護過程の展開方法Ｂ」への接続を考慮して進めております。まず、前半の内容は、介護福祉士養成教育における介護過程の位置づけについて説明しております。後半は、「介護過程の展開」を、「旅行計画」という馴染のある計画をする過程から、介護過程の展開について身近なものとする内容です。

本科目の工夫した箇所は繰り返しになりますが、「新任教員・非常勤教員」の理解が深まり、それぞれ担当する科目と「介護過程」の関係の理解度の向上、難しいと勘違いされている「介護過程」について、特別な事ではなく普段から考えられている事であり、身近な行為として理解できるようにしております。小事例は「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書～介護過程の思考過程の理解を深める～旅行計画の作成」から引用しており、広く配布されている事から使用が容易であることから、本研修においても使用いたしました。

研修を行う上で配慮するべき事は、初めから高い達成度は求めず、客観的な情報を基に自由な発想を促し、具体的に考察することの楽しさを教員自ら実感し「介護過程」の理解が深まるような配慮が必要と考えますが、本研修を受ける方のレディネスの把握は必要です。

令和2年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金（社会福祉推進事業分）
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」

介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

主な対象：新任、非常勤

分野Ⅲ　介護教員講習会の専門分野に関すること

科目７ 介護過程の展開方法Ａ

公開期間：令和３年3月３日～１２日

上田　剛 ／ 河原医療福祉専門学校

本科目の目的

- 介護福祉士養成教育における介護過程の位置づけを理解する。
- 介護過程の展開を軸とした介護実習や、介護実践の際に不可欠な支援方法であることを理解する。
- 「介護過程の展開方法Ｂ」研修を受講するためのレディネス形成ができる。

本科目の流れ

（1）	【概論】「介護過程とは」意義・目的及び、求められる介護福祉士像（専門職として自律的に介護過程の展開ができる）を示す。	30分
（2）	【小事例からの理解】 小事例（介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書）を使い介護過程の展開場面を紹介することにより、介護過程の展開を身近なものにする。（容易に想像できる事例を使用）	20分

介護福祉士養成教育における介護過程の位置づけ

「介護過程」は他の関連科目で学んだ専門知識や技術を、実際の利用者支援に向けてどのように生かしていくのかを考える科目である。

介護過程の展開を軸とした介護実習や、介護実践の際に不可欠な支援方法

介護実習では、一連の介護過程を展開する中から、専門的で計画的な介護サービスを提供できる能力を身に付ける。

介護過程とは①

「利用者が望む生活を実現するために取り組む、科学的思考と実践のプロセス」をいう。

介護過程とは②

介護過程は、介護実践の根拠（エビデンス）となるものであり、利用者の生活支援において、個別ケアの方向性や具体的な介護方法を示すものである。

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程とは③

対象者が一人の人間として、自分らしく日常生活を営むための支援方法を探求する過程であることを意味している。

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

具体的には

- 人間として当たり前の日常生活を送るうえでの生活課題を解決するための、科学的活動のプロセスです。

※生活課題
生活上の困難、支障、本人の望む生活が実現できていないなど

9 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程の意義

介護過程の展開によって、利用者の心身の状況に応じた質の高い個別ケアを提供でき、利用者のQOLの向上につながる。

10 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程の目的

介護過程の目的は、利用者が望む生活を実現する上で生じている生活課題を解決することにある。

11 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程の構成要素

12 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

まとめ

- 介護福祉士養成教育における介護過程の位置づけを理解する。
- 「介護過程」以外の教科の協力が必須である。
- 介護過程の展開を軸とした介護実習や、介護実践の際に不可欠な支援方法であることを理解する。
- 「介護過程」を実践する上で、知識・技術を活用するためには、倫理・理念も必須である。

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

本科目の流れ

（1）	**【概論】**「介護過程とは」意義・目的及び、求められる介護福祉士像（専門職として自律的に介護過程の展開ができる）を示す。	30分
（2）	**【小事例からの理解】** 小事例（介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書）を使い介護過程の展開場面を紹介することにより、介護過程の展開を身近なものにする。（容易に想像できる事例を使用）	20分

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

小事例からの理解

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

事例５：介護過程の思考過程の理解を深める

配付資料５	旅行計画の作成（河原医療福祉専門学校）
講義・演習の特徴	介護過程の課題解決的思考法を理解する
教育のねらい・効果	● 旅行という学生にとっても身近な問題について考える →介護過程の思考過程を理解する ● 「旅行計画を作りましょう」で演習の流れを提示 →問題点を予想→解釈・関連付け・統合化→計画立案 ● 登場人物の情報（体の問題、本人の希望　等）を項目番号にする →考察時間を十分にとりつつ演習時間を短縮する

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

Ⓐはじめに考えてみましょう

- 眞鍋さんは、これから友達の原さん、河野さん、阿部さんの４人で、旅行に行こうと思います。情報としては、どんなことが必要でしょう。

①何処へ行きたいか
②どんな旅行がしたいか、交通手段は？
③日程はいつがいいか
④費用の上限は
⑤体調は

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

Ⓑそれぞれの情報（アセスメント）①

①眞鍋さん（６５歳）
近県で話題性がある所に行きたい。美味しいものが食べたい。膝関節痛があるため、忙しい旅程は難しい。仕事はしているが自由に休める。経費的に問題ない。

②原さん（７０歳）
温泉に浸かりたい。有名な観光地に行きたい。昔働いていた姫路を見てみたい。魚好き、お肉が苦手。 体力には自信がある。仕事はしていない。経費的に問題ない。

18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

Ⓑそれぞれの情報（アセスメント）②

③河野さん（６８歳）

四国以外の近県に行きたい。列車の旅を楽しみたい。お魚が食べたい。膝関節痛があるため、ゆっくり楽しみたい。自営業のため時間は自由。経費的に問題ない。

④阿部さん（６９歳）

城好き、旅行好き。寒くなってきたので温かい物が食べたい。首と肩が痛いと症状あり。仕事はしていない。経費的に問題ない。

※初めに声掛けした眞鍋さんがお世話人を買って出た。全員昼間からお酒を楽しみにしている。子ども孫からお土産を期待されている。

19 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

旅行計画を作りましょう

① まずは４人の情報を基に旅行中に起こる可能性の高い問題点を「まずはじめに考えてみましょう」の５点に絞って解釈・関連付け・統合化してみましょう。（個人作業）

② 続いて分析して浮かび上がった問題点を更に考察して「旅行計画」に書き込みましょう。（個人作業）

③ ２～３人で５点の必要な事についてまとめて発表出来る様にして下さい。（グループワーク）

20 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

この情報をもとに　計画立案

- 岡山経由で新幹線で姫路へ。基本的に駅から姫路城までは歩く。膝が痛くなったら姫路からタクシーに乗る。温泉までは旅館から送迎車を依頼する。
- 姫路城は、眞鍋、河野は膝が痛くなったら天守閣には上がらず下で待つ。
- 初日の、姫路城の疲れを温泉でゆっくり癒す。
- 経費は、ＪＲを除き、〇〇万円集金し、お世話人が支払う。
- 食事は、４人の嗜好も考慮して、魚中心で野菜たっぷりのコースを選ぶ。
- お土産は、２日目に時間を取り、最後にする。

21 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

このように
要望をアセスメントして

具体的な計画を
立て実行することは、

普段からされていること！

22 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

まず介護過程とは？①

- 介護は意図的に行われる行為であり、介護過程は介護を提供するまでの道筋を科学的思考と問題解決志向に基づいて説明していくものである
- その人がその人らしく（個別的）生きるための多面的で根拠（なぜそうするのか、その理由を説明できること）ある援助計画

23 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

まず介護過程とは？②

- 介護を進めていくうえでの手順や経過（目的は１つ方法はたくさん）
- 思考過程を明確にすること
- アセスメント・計画・実施・評価で構成されている
- 利用者が望む生活の実現に向けて、意図的・計画的な介護を展開するためのプロセス（過程）

24 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

情報の解釈・関連づけ・統合化用紙

/

旅行計画 4人それぞれの情報の 項目番号	旅行計画 4人それぞれの情報を解釈・ 関連づけ・統合化する（～ではないか）	情報を解釈・関連づけ・統合化して 見えてきた旅行課題 （～という事から）（旅行提案）	楽しい旅行にするために 解決しなければならない 優先順位

/

旅行計画 4人それぞれの情報の 項目番号	旅行計画 4人それぞれの情報を解釈・ 関連づけ・統合化する（～ではないか）	情報を解釈・関連づけ・統合化して 見えてきた旅行課題 （～という事から）（旅行提案）	楽しい旅行にするために 解決しなければならない 優先順位

25　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

旅行計画

お客様氏名　　旅行大目標　　作成者氏名

旅行課題を解決した状態 中目標 （～できる）	中目標を解決するための 小目標 （中目標を叶えるための目標） （～する）	旅行の手助け	手助けの具体的方法	手助けの 頻度	手助けの 評価

26　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

おわりに

- 「介護過程」は苦手ではなく、楽しい
- 利用者の方を幸せにする計画書
- 教員も楽しんでほしい
- ネガティブな考えは利用者を不幸にする
- そんなはずはないのだが・・・
- 科学的で根拠ある介護実践ができる介護福祉士の養成
- 更に学びを進めたい方は「介護過程の展開方法B」へお進みください。

27　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

◆科目８　介護過程の展開方法Ｂ（主な対象：専任）

目的・ねらい	・介護過程の展開について、養成校として教授する部分および視点を共有する ・介護過程の教授や指導の実践事例の素材を紹介しつつ、各養成校で活用している教材のブラッシュアップにつなげることができる
講　師	・平野　啓介／旭川大学短期大学部　生活学科生活福祉専攻
研修概要	(1)概論：介護過程およびその展開：介護過程の教育内容のねらい、教育に含むべき事項を示す。次に、ケアプランと個別介護計画の関係性、介護過程の意義と目的、展開過程（アセスメント、計画、実施、評価）について、養成校として教授する部分および視点を共有する (2)実践事例の素材紹介：介養協発行「報告書（下記文献）」に掲載されている実践事例を紹介し、教材のブラッシュアップへつなげていく
時間数	(1)40 分／(2)20 分　計 60 分
参考文献	・共通 2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通 3)「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」 ・共通 4)「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書」

「介護過程の展開方法Ｂ」は、専任教員の皆様を対象としたモデル研修でした。

介護過程は、利用者本人の望む生活の実現に向け、アセスメント、計画立案、実施、評価のサイクルに基づき、かつ介護の実践根拠を利用者、家族、同職種、他職種へ示す重要なものであり、介護福祉士養成の中核科目ともいえます。

それゆえ養成校の諸先生方から、多様な生活経験のある学生にどう理解してもらうか、介護過程の教授や指導方法、教材開発の確立に日々ご苦労されていることを耳に致します。介護過程の理解は、介護実習の成果にも直結することから、実習施設（指導者）との連携も網羅しながら展開していく必要があります。

本モデル研修では、公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会の調査・研究報告書を参考にし、研修目的を 2 つにしました。第一に概論として「介護過程の展開について、養成校として教授する部分および視点を共有する」、第二に事例紹介として「介護過程の教授や指導の実践事例の素材を紹介しつつ、各養成校で活用している教材のブラッシュアップにつなげる」としました。

概論は約 40 分間で、介護過程の教育内容のねらい、教育に含むべき事項、ケアプランと個別介護計画の関係性、介護過程の意義と目的、展開過程（アセスメント、計画、実施、評価）において教授する部分および視点に触れました。事例紹介は約 20 分で、「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書（2020）」にある全国の養成校教員が実践している取り組み事例を紹介させていただき、本モデル研修担当の指導経験も加えました。

介護過程は、介護福祉士養成教育の「介護」領域に含まれますが、サービス利用者の最善の利益を担保するため「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の領域で得た知識、技術を総合的に活用していく必要があります。そのためには、指導教員間で「介護福祉士養成課程にお

ける修得度評価基準」と「教育に含むべき事項と留意点」を事前に共有化しておくことが極めて重要であると考えます。

介護過程の目的・意義・構成要素等を教授する際には、誰のための介護過程なのかということ。アセスメントでは、国際生活機能分類（ＩＣＦ）の構成要素に代表されるように様々な視点から俯瞰する力と生活課題（ニーズ）導き出す力が求められます。計画立案では、利用者、家族はもちろん、同職種で標準化した介護ができ、さらに多職種連携を推進させるための文章化・言語化が求められます。実施では生活支援技術で学修する介護の原則と実施記録が必要です。評価は、計画立案の通り実施できたか、アセスメントも含めた成否を確認する力が求められます。列挙した内容はほんの一部ではありますが、介護過程を単に循環させるだけではなく、専門職としての倫理観、介護観、利用者との関係性を醸成させつつ、サービス利用者の人生に関わっていくという点も教授する必要があります。

本研修は介護過程の展開方法について教授する共通部分を示すに留まりました。介護過程を研究領域とする諸先生方のご意見等々あると存じますが、今後も中核科目である介護過程のより良い教授方法を検討できれば幸いです。

令和2年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金（社会福祉推進事業分）
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」

介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

主な対象：専任

分野Ⅲ　介護教員講習会の専門分野に関すること

科目８ 介護過程の展開方法Ｂ

公開期間：令和３年３月３日～１２日

平野　啓介　／　旭川大学短期大学部

本科目の目的

- 介護過程の展開について、養成校として教授する部分および視点を共有する。
- 介護過程の教授や指導の実践事例の素材を紹介しつつ、各養成校で活用している教材のブラッシュアップにつなげることができる。

本科目の流れ

（1）	【概論】介護過程およびその展開 介護過程の教育内容のねらい、教育に含むべき事項を示す。 次に、ケアプランと個別介護計画の関係性、介護過程の意義と目的、展開過程（アセスメント、計画、実施、評価）について、養成校として教授する部分および視点を共有する。	40分
（2）	【実践事例の素材紹介】 介養協発行「報告書」に掲載されている実践事例を紹介し、教材のブラッシュアップへつなげていく。	20分

本研修の目的

【概論】介護過程の展開について、養成校として教授する部分および視点を共有する

①「本人の望む生活の実現に向けて」→「利用者の最善の利益」探求
②介護過程の展開経験は「実習施設」で
③介護過程→5者（利用者、家族、学生、実習指導者、教員）が関係
④学生を送り出す側である養成校の役割【現状（課題）をふまえつつ】

【概論】介護過程およびその展開

1　介護過程の教育内容のねらい
2　教育に含むべき事項
3　ケアプランと個別介護計画の関係性
4　介護過程の意義と目的
5　展開過程の教授する部分および視点
　（1）アセスメント
　（2）計画
　（3）実施
　（4）評価

本研修の参考・引用文献

	「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書」（2020）
	「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書　介護福祉士養成課程　新カリキュラム教育方法の手引き」（2019）
	「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」（2019）
【発行】いずれも公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会	

1　介護過程の教育内容のねらい

平成19年改正

他の科目で学習した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案。
適切なサービスの提供が出来る能力を養う学習とする。

社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会（介護福祉士養成課程における教育内容の見直し〔平成30（2018）年2月15日〕をもとに新カリキュラム内容を報告

2019年度から順次新カリキュラム導入

本人の望む生活の実現に向けて
生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習。

7　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程の展開・指導の現状

◆介護福祉士養成課程におけるカリキュラムの見直し

介護福祉の専門職として、介護職チームの中核的な役割を果たし、認知症高齢者や様々な障がいを抱えた方等の増加に伴う介護ニーズの複雑化、多様化、高度化等に対応できる介護福祉士を養成する必要がある。

具体的実現のために「介護過程」が重要

◆授業展開・指導の現状（課題）

（1）介護過程の教授、指導方法、教材開発の確立
（2）多様な生活経験のある学生指導
（3）養成校で用いるテキスト、介護過程の書式の差異
（4）養成校（教員）と実習施設（指導者）の連携
（5）実習指導者の介護過程の指導経験・人材確保・キャリア　等

8　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

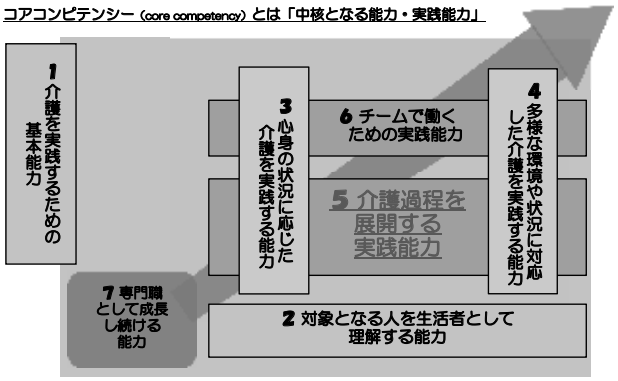
2　教育に含むべき事項
介護過程（150時間）教育に含むべき事項と留意点

教育に含むべき事項	留意点
①介護過程の意義と基礎的理解	介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解する内容とする。
②介護過程とチームアプローチ	介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画（介護計画）との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する内容とする。
③介護過程の展開の理解	個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる内容とする。

9　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成課程における修得度評価基準としてのコアコンピテンシーとその構造

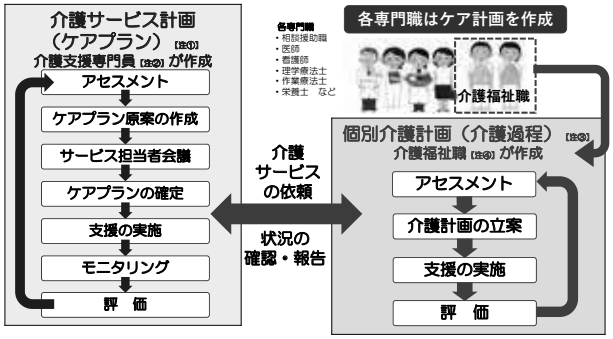
コアコンピテンシー（core competency）とは「中核となる能力・実践能力」



出典「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会　平成31年3月

10　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3　ケアプランと個別介護計画の関係性



【注】障害者総合支援法においては、以下のように置き換えられます
①ケアプラン＝サービス等利用計画、②介護支援専門員＝相談支援専門員、③個別介護計画＝個別支援計画
④介護福祉職＝生活支援員

11　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

4　介護過程の意義と目的

（1）介護過程とは
「利用者が望む生活を実現するために取り組む科学的思考と実践のプロセス」をいう。

（2）介護過程は、介護実践の根拠となるものであり、利用者の生活支援において、個別ケアの方向性や具体的な介護方法を示すものである。

（3）利用者が一人の人間として、自分らしく日常生活を営むための支援方法を探求する過程であることを意味している。

12　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生に教授している部分および視点

①「意図的に行う介護の実践」であり、それには全て根拠がある。我々は、その根拠を説明できるところまで求められる。
②生活場面“さりげなく”実践（それゆえわかりづらい）
③日常の多くの時間、利用者とかかわる。
実践内容は、利用者の尊厳に影響を及ぼす。
我々が行う実践には責任が伴う。
④介護過程の道筋にそって思考する。

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程の意義

介護過程の展開によって、利用者の心身の状況に応じた質の高い個別ケアを提供でき、利用者のQOLの向上につながる。

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生に教授する部分および視点

①個別性
例　排泄介助（トイレ誘導…オムツを交換…動作は同じに見える）
でも排泄介助に至った背景・プロセス・実践の根拠は異なるはず…
②「場当たり」的に実践するものではない
“何故”それを実践するのか
「説明のつかない」介護をしてはいけない
③“何故”を説明するには「ことば」「文章」で伝える必要がある
④経験年数のみに依拠すると利用者に不利益が生じる（ベテランはできるが新人は…）

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生に教授する部分および視点

⑤計画に基づく支援→評価可能→ケアの質担保
（介護福祉士の存在意義が高まる）
⑥根拠に基づいたケアができる
⑦展開過程にそって検討ができる
⑧誰が実践しても一定のレベルで提供できる
（ベテラン・新人、誰か一人上手でもだめ）
⑨利用者の参画・同意を得て検討→利用者主体
⑩その人らしさ、よりよい生活へ

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生に教授する部分および視点

⑪その人らしさ
・その人（例　利用者Aさん）とその人（介護者B）との関係だけで、Aさんらしさは決めることはできない。
・今までの歴史・価値観等が、その人らしさをつくる
・誰がきめるの？「その人（Aさん）」がきめるもの
・周囲から観たAさんは◯◯な人…でも違ったら？
誤ったAさんのとらえ方になる
・「個別性」「唯一性」　→　皆同じケアはありえない
人生は「その人の価値観」が基盤となっている
⑫介護福祉職は「その人らしさ」の部分に立ち入らせて（踏み込ませて）もらう
⑬全て知ることは難しいが「その人らしさ」とは何かを探求することが大切

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護過程の目的

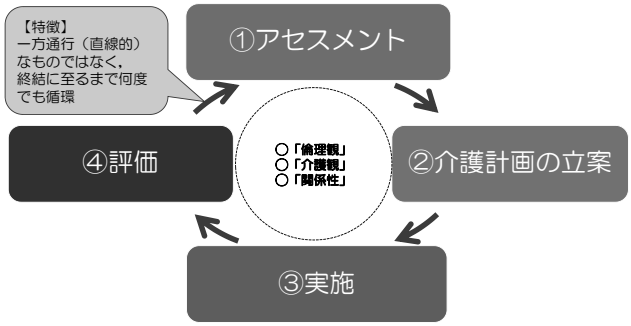
・介護過程の目的は、利用者が望む生活を実現する上で生じている生活課題を解決することにある。

18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生に教授する部分および視点

①生活課題を解決するために
　介護実践のために、どの部分を観るのか
②何故その介護が必要か「言語化」
　・考えていることを言語化しないと
　　本人、家族、同職種・他職種に伝わらない
　・用い方が不適切であれば利用者の尊厳にも関わる
　・だから用いる言葉一つひとつにこだわる
③利用者の目標を共有化する
　・ゴールがいくつもあると利用者が困る
　・共有化するには連携、理解、信頼が必要
　・コミュニケーション、記録等の総合的学習が重要

介護過程の構成要素[注]



［注］介護過程の構成要素の概念、アセスメントに含む要素の考え方は一つではないが、ここでは上記図に基づき説明する。

5　学生に教授する部分および視点
「介護過程を展開する実践能力」の具体的な４つの能力

介護過程を展開する実践能力

（1）対象となる人をアセスメントする能力

（2）アセスメントに基づき介護計画を作成する能力

（3）根拠に基づき生活支援技術を適切に実践する能力

（4）実践を評価し、改善する能力

（1） 対象となる人をアセスメントする能力

介護福祉士養成課程における修得度評価基準

91．介護実践におけるアセスメントの意義と着眼点を説明できる

92．事例と実習を通して、情報の分析・解釈・統合ができる

93．状況に応じた介護や生活支援という目的を踏まえ、生活課題や介護の方向性を検討できる

94．利用者の活動に影響をおよぼしている人間の心理、人体の構造と機能について説明できる

（2） アセスメントに基づき介護計画を作成する能力

介護福祉士養成課程における修得度評価基準

95．介護実践における介護計画立案の意義について説明できる

96．立案した介護計画の根拠や内容について、同職種や他職種に説明できる

97．アセスメントにより設定した生活課題と介護の方向性に基づき、介護計画を立案できる

（3） 根拠に基づき生活支援技術を適切に実践する能力

介護福祉士養成課程における修得度評価基準

98．立案した介護計画を、チームメンバーと連携し、指導のもと実践できる

99．立案した介護計画を、利用者の状況にあわせて指導のもと実践できる

100．日々の介護実践を、専門職の支援として記録できる

101．具体的な支援の根拠を説明できる

（4） 実践を評価し、改善する能力

介護福祉士養成課程における修得度評価基準

102. 介護実践における評価の意義を説明できる
103. チーム（同職種・多職種）における評価の意義を説明できる
104. 介護計画にそって実施できたか、介護計画は適切・妥当であったかについて評価できる
105. 目標到達の状況を踏まえ、再アセスメントの必要性について検討できる

（1）アセスメント

（1）利用者が望む生活の実現に向けて、利用者が抱えている個別の生活課題（解決しなければならないこと）を様々な視点から把握する

（2）現在の必要だけでなく，将来を含め利用者が本当に必要としている客観的・総合的なもの

（3）本人の要望（ディマンド）と、介護福祉士からみての要り様も

（4）顕れているものとそうでないもの、その背景に潜むものも把握

（5）アセスメントに含まれるもの
「情報収集」「情報の分析・解釈・統合」「生活課題の抽出」

（6）アセスメントで「必要な支援とその理由」を明確に文章化

（7）利用者に関わる介護福祉職で共有

アセスメントの視点

様々あるも

（1）利用者が望む生活への阻害要因を生活全般から明らかに

（2）利用者の希望や意思を確認することが必要

- 「利用者の言動」や「思いや願い」を出発点にアセスメントする
- ＩＣＦの「生活機能モデル」から生活をとらえ、＜生活課題の４要素＞から支援を検討する
- 「活動」「参加」に注目する
- 「できること」と「できないこと」を把握し、「できること」を維持する工夫や、「生活の再構築」の視点から検討する

- アセスメントの３つの視点

＜自立の視点＞
（もてる力の発揮、もてる力を発揮するうえでの支障・困難、福祉用具の活用、意思表示の状況）

＜快適の視点＞
（プライバシーや自尊心の保持、生活スタイルや価値観の維持、パワーレスを招く状態の有無）

＜安全の視点＞
（生命の状態を悪化させている原因や悪化を招きそうな状況の有無、リスクマネジメントを要する状況の有無）

例

- 介護過程展開の視点

＜実践の目的（支援の指標）＞
- 活動（ADL、IADL）の維持・改善
- 参加や役割の維持・拡充・実現
- 健康の維持・改善
- 社会生活や社会関係の維持・拡充
- 安心・安楽、生活の満足感

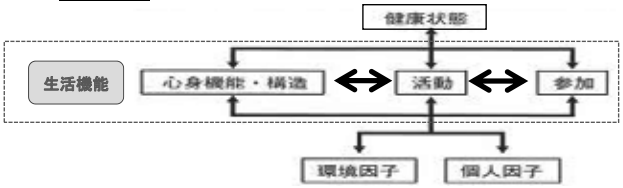
＜実践の基盤＞
- 本人の願い、思い
- 介護サービスの理念（尊厳の保持、利用者主体、自立支援）

（1）－①情報収集の展開方法と留意点

「情報収集」	①「利用者を総合的に理解」し「介護実践」するための第一歩 何の情報を収集するのか ②「観察」と「コミュニケーション技術」を活用し直接かかわる ③【情報源】 本人から収集（を大切に）、周囲（他職種、第三者、記録等） ④客観的情報 ⑤主観的情報（利用者の思い、考え） 【教授する視点】 ・事実をありのままとらえることができるか 意味付けしない＝自分の解釈入れない→情報が違ったものに
【留意点】 〔利　点〕 〔限界点〕	各養成校では情報収集のための様式がある 一定の枠組みからの情報収集が可能→必要な情報をとらえ収集できる 情報収集の標準化（これがあれば一定の情報収集が可能） 「利用者の全体像」が俯瞰できる→個人情報の管理の重要性も認識 介護の目的・介護サービス種類、利用者状況等により違う 項目にない情報がもれる可能性 項目以外は着目しない（収集しなくてもよい）と考えてしまう可能性

国際生活機能分類（ICF）

（1）様々な視点から利用者の全体像を捉える枠組み
（2）多職種連携に必要な共通言語



（3）この枠組みを用いることで「全体的俯瞰」が可能
（4）「現在」の状況を理解し「将来に向かって」介護実践するには「過去」を知る必要も

過去 → 現在 ⋯⋯ 将来

（1）－②情報の分析･解釈･統合の展開方法と留意点

「分析・解釈・統合」	①分析：ある事柄の内容・性質などを明らかにするため、事柄を構成する要素・条件などに分けて解明すること ②解釈：物事や行為などを判断し理解すること、またはその説明 ※ここで介護福祉職が「どのように理解したか」言語化・文章化 ③統合：２つ以上のものを合わせて１つにすること 【教授する視点】 ・現在の状況は何故生じているの？→原因・背景 ・現在の状況から将来に向かって予測される可能性（期待）は？または危険性は？ ・利用者の希望、心情を人物像も含めて考えてみよう
【留意点】	情報の分析・解釈・統合に時間を要する　→　気づかせる伝え方 ・介護実践の方向性を決定するために必要（展開過程に沿っているか） ・言語化・文章化が問われる ・今までの学習した内容を思い出してみよう ・全体を俯瞰し、情報と情報をつなぎ合わせないといけない ・一方的な思い込み・決めつけになっていないか（分析者の生活経験・価値観に偏る、あるいは根拠がない）

（1）－③生活課題の抽出の展開方法と留意点

「生活課題」	①「解決しなければならない」こと ②「利用者の望む生活や、期待できる利用者の状態を目指すための課題」 ③プラス面（強み・長所）、マイナス面（機能低下や問題）など多面的な要素を含む ④介護福祉職が支援を行うことで解決・改善・維持・実現できる ⑤「情報の分析・解釈・統合」をふまえ抽出する 【教授する視点】 ・生活課題は「利用者を主語」に表現 ・表現方法は様々あるも「～したい」「～なりたい」など目標指向型で表現→ご本人の意欲的・主体的取り組みが重要 ・生活課題が複数ある場合は優先順位を検討

【留意点】生活課題の抽出にに時間を要します→気づかせる伝え方
・「現在の状態」と「望む生活」の差の部分に介護の専門職としての実践を
・利用者はどのようになりたいと思っているの？（表現できない場合も含め）
・課題→利用者（健康状態、心身機能・身体構造、個人因子）にある場合、生活環境にある場合
・優先順位の要素は様々→個別性をふまえ検討し「言語化」「文章化」する

31 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

（2）計画

① 介護計画の立案では、アセスメントによって明確になった生活課題を解決するための「介護目標」を設定し、その介護目標を達成するために必要な支援内容及び方法を組み立てる。

② 介護計画は、本人や家族への説明と同意のもと、介護福祉職チームのメンバーが利用者一人ひとりに応じた介護方針や介護内容・方法を共有するものである。

32 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護計画立案の展開方法と留意点

「介護計画」	①介護目標設定 ・長期目標:生活課題を解決し、最終的に目指す生活状態像と評価日（６ヶ月～１年程度）を設定 ・短期目標:長期目標の達成に至る段階的な目標の達成期間を設定 ②支援内容・支援方法 ・利用者への支援内容・支援方法を共通理解しケアの統一を図る ・支援内容は介護福祉職が実施する内容を記す ・支援方法は支援内容を実現する具体的な方策を記す 【教授する視点】 ・利用者が納得でき、介護福祉職と共有できる ・利用者の意思を反映し、自己実現を目指し取り組める ・現実的で達成可能か？評価（測定）できるか？ ・記載内容は、かかわる介護福祉職が同じく実践できるか？ ・利用者の能力を活用かつ無理のない支援内容・支援方法か？ ・利用者や家族へ説明し同意を得ているか？

【留意点】文章化に時間を要する→学生とのやり取りが重要
・言語化、文章化のサポート（5W1H、わかりやすい記載）
・評価を想定した客観的な記載かどうか

33 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

（3）実施

① 介護計画を介護福祉職チームで共有し、介護計画に基づく介護実践をすること。

② 介護過程の展開における「実施」は、日々の介護の実践そのものであり、立案した計画を実行することである。

③ 介護実践においては、介護福祉職チームの意識統一、サービス提供の態勢が重要であり、介護目標の達成度に影響を与える。

34 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

実施の展開方法と留意点

「実　　施」	①「目標」と「具体的方法」を確認して行う ・利用者が目指している状態像の確認 ・目標の達成を基準とした観察の視点の確認 ・支援内容や方法について介護福祉職チーム全体での共有 ②利用者の反応をみながら、安全に留意して行う ・正しい介護技術を身につけ事故防止に努める ・利用者との信頼関係の構築 ・肯定的な心理的サポート ③実施時の利用者の反応などを記録する ・計画した援助内容をどのように実践したか記録 ・実践のなかで利用者はどのようであったか記録 ・記録は事実のまま、簡潔に記入 【教授する視点】 ・関連科目の知識を引き出す、自己の身体の遣い方が重要 ・「評価」につながる部分であること→記録

【留意点】
・座学で基礎を学び、演習で体得
・他科目「生活支援技術」「介護実習（または介護総合演習）」との連携
・介護実習前（後）指導が重要

35 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

（4）評価

① これまでのプロセスを振り返り、目標が達成できているか検証すること。

② そのうえで、実践された介護を今後どのようにするのかを検討する。介護実践の後には、その評価を客観的に行う必要がある。

③ 評価は立案時に設けた期限（評価日）及び利用者の生活状態に変化が生じたときに行う。

36 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

評価の展開方法と留意点

目標が達成できたか否か

➡ 目標が達成された場合

- 今後も具体的な方法を継続する必要があるか否かを判断する
- 完全に解決された場合には新たな生活課題について再アセスメントする

➡ 目標が達成されなかった場合

・介護過程の各段階にさかのぼって検討し、見直しを行う 【留意点】介護過程の展開を再認識してもらう

介護過程の各段階に沿った評価の視点

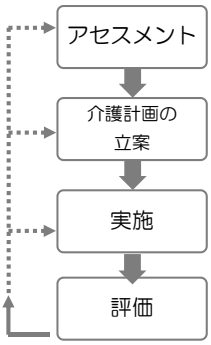
※評価の順番は、（1）→（2）→（3）→（4）

（4）情報収集、利用者への情報提供に不足や偏りはなかったか

（3）生活課題や介護の方向性の判断は適切であったか

（2）利用者にとって適切な内容、妥当な内容であったか
計画は無理のないものであったか

（1）実施は計画に沿って行われていたか
実施していくなかで、利用者の反応はどうだったか



本研修のまとめ

【概論】介護過程の展開について、養成校として教授する部分および視点を共有する

①「本人の望む生活の実現に向けて」→「利用者の最善の利益」探求

②介護過程の展開経験は「実習施設」で

③介護過程→5者（利用者、家族、学生、実習指導者、教員）が関係

④学生を送り出す側である養成校の役割【現状（課題）をふまえつつ】

介護福祉士養成教育の基本的体系

①「人間と社会」
その基盤となる教養や
倫理的態度の涵養に資する

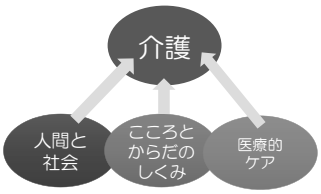
②「介護」
「尊厳の保持」「自立支援」
の考え方を踏まえ
生活を支える知識と技術

③「こころとからだのしくみ」
多職種協働や適切な
介護の提供に必要な根拠

＋

「医療的ケア」

「その人らしい生活」を 支えるために
必要な介護福祉士としての
専門的技術・知識を「介護」 で学ぶ



「介護」に必要な周辺知識 を
「人間と社会」「こころと からだのしくみ」
で学ぶ

本研修の参考文献一覧

【注】スライド6のほか

1. 家子敦子・東海林初枝（2018）「介護過程展開様式のプロセスからみえた介護過程スキル向上のための課題－介護過程展開法施設研修の5年間の取り組み」『仙台女大紀要』 22(0)、63-73.
2. 石野育子編著（2014）『介護過程』メヂカルフレンド社
3. 北海道老人福祉施設協議会　倫理綱領　http://roushikyo-hokkaido.jp/pdf/rinri_koryo.pdf
4. 介護福祉教育研究会編（2018）『新版 楽しく学ぶ介護過程』時潮社
5. 介護福祉士養成講座編集委員会（2015）新・介護福祉士養成講座９『介護過程第3版』中央法規出版
6. 介護福祉士養成講座編集委員会（2019）『介護過程』中央法規出版
7. 公益社団法人日本介護福祉士会「令和元年度　新カリキュラム対応介護実習指導研修」資料
8. 森繁樹編著（2015）『事例で読み解く介護過程の展開』中央法規出版
9. 日本介護福祉士養成施設協会編（2014）『介護の基本/介護過程』法律文化社
10. 中家洋子（2019）「介護過程におけるアセスメントに焦点化した思考過程の可視化に向けた効果的な教育方法」『大阪人間科学大学紀要』（18）、83-93.
11. 高木剛（2017）「介護過程における課題分析の文章作成に資するワークシートの考案－課題分析の文章例の構成要素を踏まえて－」『社会事業研究』第56号、42－51.

【実践事例の素材紹介】

「介護過程展開の実践力向上のための調査研究事業報告書（2020）」に実践事例を紹介

全国の養成校で、介護過程に携わる教員が日々努力を重ねた成果を掲載（参考・励みになるもの）

詳細は左記報告書で御覧ください
お取り扱いには充分ご注意ください

【発行】公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

課　題	実践事例
介護過程の展開	（1）学生に身近な例を挙げて学習する （2）教材を開発（自作）→養成校独自のシート →情報収集が行いやすいようＤＶＤを作成している養成校も （3）教科書のほか視聴覚教材 〔利用者（例　健康状態、生活環境、発したことば、表情など）理解、専門職がどのように関わっているか（例　介護福祉職のほか、他専門職の専門性を視聴し、教科書で調べさせる、介護の専門職としての倫理観やディレンマの理解に役立つ ・再生、ストップ、指導ポイントの強調が可能、記録のトレーニングになる ・同じ教材でも修業年限により「気づき」「習熟度」が違う ・１年次は多様な事例を、２年次は一つの事例を深化（ディスカッション）できるような取り組みを→学生の意見から （4）作成した介護計画を自分たち以外のグループで実施してもらい、動画として記録を残し、計画の検証・評価をする ・模擬カンファレンスの実施 ・（実習）個別介護計画について、多職種に入ってもらい、カンファレンスを実践してもらっている

43　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

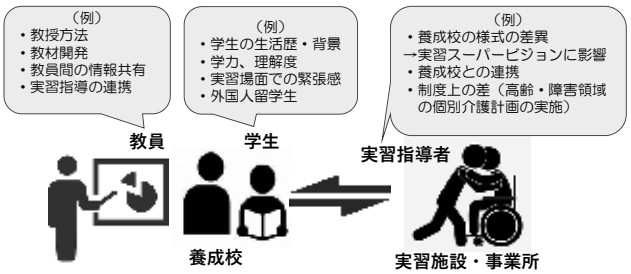
課　題	実践事例
学生指導	（1）年度により学生の様子は違えど、教員が教材開発の努力を止めないこと→スライド、言葉の説明のわかりやすさ （2）信頼関係の構築［発言内容、学生との契約など普段の関わり］ （3）良い点を褒めてあげて、課題点を伝えている →　わからない点をキャッチする教員のセンサーが重要 介護過程のどの部分を苦手としているかを、継続的に把握（授業・提出物）していくしかない （4）介護過程では、アセスメント、計画に時間を割く傾向 （他方で、実施、評価に充分な時間が割けないという課題に） （5）養成校で用いる介護過程書式の重要ポイントを伝える、記録させる→介護実習担当教員との連携（情報共有が不可欠） （6）個人指導を基盤としつつ、クラスメンバーの力を借りる （お互いに教え合う、他者との関わりで気づいた点、重要な点にフォーカスする） ※2020年度は新型コロナウィルス感染症による影響で、オンライン授業が本格的に導入された。反復学習が可能 普段発言しない傾向の学生が「投稿・チャット機能」だと積極的に（素直に喜べない部分もあるが…） （7）学生が「わかった」「充実した」という体感が得られたあとのモチベーションは高い →関心を持たせる、考えさせる、言葉にこだわる、言葉で言えるが文字に書けない、実践現場の中で育てあげる

44　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

課　題	実践事例
連　携	（1）教員間 ①介護過程の教授状況（内容、視点）の共有化 ②学生の習熟度、日常生活の様子→情報共有 ③他科目、介護実習指導と連動→担当教員間で標準化した指導について確認が必要 （2）実習施設（指導者） ①学生の様子を共有（学生を一緒に育てていく） ※実習指導者会議、実習報告会の開催 実習指導者に参画してもらうことが重要 ②学生の学習成果、疑問（つまづき）、指導方法の共有 ③介護過程の教授方法のシェア （本学では○○のように指導しています） 【注】養成校で介護過程の書式が異なり、指導が大変という報告も （例）養成校共通のシート作成、指導の観点を記した説明書 ④実習指導者（あるいは卒業生）の力 →施設見学、実習指導者会議、実習報告会など、教員以外の評価（助言）の機会を設ける

45　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

実践事例の紹介にあたり（まとめ）



【実践事例】教材のブラッシュアップへの参考として紹介

- 科目「介護過程」教材開発だけにとどまらない
- 介護福祉士養成全体に波及することに気付かされる（他画像をご参照ください）

46　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

◆科目９　介護のためのケーススタディ（主な対象：新任）

目的・ねらい	・介護福祉現場に関わる事象からの気づきを 、課題解決する研究方法について理解できる ・事例研究（ケーススタディ）からエビデンスを導き出す方法を選択できる ・介護福祉関連学会への参加ができる ・興味関心を深める研究活動に参画できる
講　師	・野田　由佳里／聖隷クリストファー大学　社会福祉学科　介護福祉コース
研修概要	(1) 概論：研究方法の入門から、実践報告及び事例検討、事例研究（ケーススタディ）の特徴について概説する (2) 方法論：ケーススタディの紹介を行う。事例を調べ、分析、検討する一連のプロセスを体験する。背後にある原理や法則を導き出すために、質的な調査方法を用いる。また帰納法についての理解を促す機会とする。一部ツール利用による量的分析を試みる
時間数	①30 分／②30 分　計 60 分
参考文献	・共通 1)「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書　～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・共通 2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」

■科目の展開内容

当該科目は、初学者を対象とした科目です。介護の現場では、より質の高いケアを行うためにケースカンファレンスや事例研究が行われています。介護福祉士養成過程においても、介護福祉士の学びを通して、介護実習で介護過程を実際に展開し、その事実をもとにケーススタディを行っています。当該科目では、そのケーススタディを養成校がどのような指定科目で取り入れ、またどのような目的をもって取り組んでいるかを理解して頂くことを主軸に展開をしています。

特に【介護のためのケーススタディ】という科目名にした理由として、より質の高いケアを提供できる介護福祉士の輩出は、介護現場のサービスを保証し、介護の専門性の向上や、社会的評価を上げたいとの願いもこめ、介護福祉士の独自性である生活の場所で行う研究としての位置づけ、介護福祉実践を研究的視点で再検討する意義を考えたネーミングです。

■科目における工夫やねらい、今後に向けて

当該科目は、介護教員講習会の専門分野【研究方法】に位置づけられた科目の一部です。今回のモデル事業では、本調査研究事業の質問紙調査の回答から、従来の介護教員講習会の内容が、「短期的な研修にそぐわない」「現場の乖離が大きい」「実践現場経験を研究方法とする基礎的な内容が必要」との意見もあり、大学教育における卒業研究や、大学院等で学ぶ専門性の高い研究方法とは一線を画し、介護福祉実践からの学びを促すものとすることとしました。研究方法は数多くありますが、介護福祉士養成で最も多く用いられているケーススタディについて理解をすることで、他科目との関連や、実習経験をどう学びに活かし、資格取得後の介護実践に必要な個別ケアや、チームア

プローチなどをどう伝えるかなど具体的な教授方法を中心に構成しています。介護福祉士養成で学ぶ学生にとっての楽しみであり、新任として介護教員になられる方にとって、学生からの信頼を得るきっかけは『みずみずしい・リアルな介護実践』＝経験談ではないでしょうか？ 新任の先生方の直近の経験談は、学生にとっても興味関心が高く、テキスト内のペーパーシミュレーションにはない現場感覚を味わえ、実際の授業でも、介護福祉実践現場での支援内容を講義内容に組み入れる場面も多くなるのでのではないでしょうか？経験談は、ある意味、ミニケーススタディになっている側面もあると思います。介護教員の資格要件であるこの現場経験 5 年以上の意味は、介護福祉実践を客観視できる点にあると思います。

改めて介護学生にとって介護実習の様々な経験（成功体験・失敗体験を含む）から、介護福祉士養成課程でケーススタディを行う意義を整理します。

・ケーススタディを行う意義

①介護実習の振り返り：実習目標・実習経験・気づき・自己課題の発見・問題意識

②分析的思考と学習経験：事例の客観化・実習で行った介護福祉実践の客観化

③研究的視点の習得：ケーススタディのプロセス・介護福祉実践への意識づけ

④学習意欲の向上

ケーススタディを通して、介護学生が自己覚知し、スキルアップを促す有効性の高い研究方法と考えています。

令和2年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金（社会福祉推進事業分）
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」

介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

主な対象：新任

分野Ⅲ　介護教員講習会の専門分野に関すること

科目９ 介護のためのケーススタディ

公開期間：令和３年３月３日～１２日

野田　由佳里／聖隷クリストファー大学

本科目の目的

- 介護福祉現場に関わる事象からの気づきを、課題解決する研究方法について理解できる。
- 事例研究（ケーススタディ）からエビデンスを導き出す方法を選択できる。
- 介護福祉関連学会への参加ができる。
- 興味関心を深める研究活動に参画できる。

本科目の流れ

（1）	**概論**：研究方法の入門から、実践報告及び事例検討、事例研究（ケーススタディ）の特徴について概説する。	30分
（2）	**方法論**：ケーススタディの紹介を行う。事例を調べ、分析、検討する一連のプロセスを体験する。背後にある原理や法則を導き出すために、質的な調査方法を用いる。また帰納法についての理解を促す機会とする。一部ツール利用による量的分析を試みる。	30分

介護のためのケーススタディ

（１）概　要

１．研究

研究って**何かよくわからない**

何について研究するか決まっていない

具体的な研究計画の作り方がわからない

研究方法にはどんなものがあって、**自分のテーマ**にはどれがふさわしいのかわからない

２．アイデア

現場の介護職であれば、日頃の業務の中でふと気づいたアイデアや、実際におこなって成果を上げている実践、前々からどうも気になっている職場の課題など。

3. 問題意識

問題意識がある程度はっきりして
研究が始まってからも、
「今調べていることは、
はじめに自分が明らかにしたかった
問題の解明に役立つのか？」
と自分に確認すること。

4. 研究成果

・研究
他の人々によってこれまでに
蓄積されてきた研究成果をふまえる
1つの研究はそれまでの
さまざまな研究を土台として成り立ち
またそれに続く次なる研究の土台の一部
をなしていくことに大きな意義

5. アイデアを形にする方法

～アウトラインを描く～
研究を始めるには、
まずはおおまかなアウトライン（輪郭）
を描くことが重要。

6. 量的研究か、質的研究か

仮説／命題
「仮説」とは、経験的事実を説明するために定式化された未検証の命題（または命題群）。
研究方法の選択
「記述的仮説」ある1つの状態について記述的に把握するための仮説。
「説明的仮説」それが起こっている原因を探求したり、現状に対するなんらかの取り組みの効果について明らかにする。

7. 研究方法の選択

テーマに合った研究方法を選ぶ。
- 量的研究：比較的多数の対象について定型化された量的データを収集し、統計的手法を用いて変数間の関係について説明。
- 質的研究：**比較的少数の対象について多様で詳細な質的データを収集**し、柔軟な手続きにより対象を全体的にかつ深く理解。
- トライアンギュレーション：複数の調査技法を組み合わせて、それぞれの方法の長所を活かし、ことがらを多面的に把握。

8. 量的研究の考え方と特徴

・量的研究
大きく分けると
「実験」「調査」
介護研究においては、研究テーマや状況に応じて、どちらも有効な方法。

9. 量的研究：全数調査／標本調査

- 全数調査
  研究対象として想定されているすべての方について調査
  調査結果がすなわち研究対象全体の回答
- 標本調査
  研究対象として想定さている方の一部を調査
  全体についての情報を得ようとするもの

10. 質的研究の考え方と特徴

- 質的研究
  人類学や歴史学、社会学の領域で使用
  - ☞幅広い領域で多様な展開
  - ☞注目を集めている方法

11. 数値化できない現実

明確に数値化できない現実のあり様

- ☞インタビューや参与観察など
- ☞さまざまなタイプの詳細なデータを蓄積し、分析する方法

12. 事例研究

介護研究の分野
「事例研究(ケーススタディ)」
として比較的親しまれている研究方法

- ☞質的研究の一種として紹介される
- ☞量的研究の方法を用いておこなう事例研究もある

＊<u>事例研究≠質的研究</u>

13. 研究対象の秘密保持

研究対象
研究に協力することを同意
研究の過程および研究結果を公の場で発表する場合

- ☞<u>研究対象の方の秘密保持について十分気をつける必要</u>

14. 日本介護福祉士会倫理綱領

プライバシーの保護

介護福祉士は、プライバシーを保護するため、職務上知り得た個人の情報を守ります。

15．ケーススタディとは何か①

➢ケーススタディ（事例研究）

個別的な事例を題材として、そこから一般化できる事象、また、他の利用者・家族にも適用することのできる援助や理論を導き出すことを目指していく手法

16．ケーススタディとは何か②

➢ケーススタディ（事例研究）

ある事例でのケア内容や利用者・患者との関わりを整理・分析して、ケアの側面、または利用者・家族との相互関係を追及していく研究方法

17．ケーススタディとは何か②

➢ケーススタディ（事例研究）

介護福祉士養成教育では

・介護総合演習　・介護過程　の一環として

・事例研究　・実習報告　・ケースレポート

として多くの養成校で取り組まれている手法です。
また

ケーススタディ、卒業研究、介護研究方法

など指定科目外の独自科目として設定している養成校もあります。

介護のためのケーススタディ

（2）方法論

＊＊聖隷クリストファー大学　野田由佳里＊＊

contents

➢ケーススタディとは何か

➢ケーススタディの進め方

➢ケーススタディの実際

1．ケーススタディとは何か①

➢研究をする上で・・・
問題の所在（リサーチクエスチョン）
着想：何か気になる

➢キーワード：
認知症、BPSD、介護拒否

1．ケーススタディとは何か②

➢ケーススタディ（事例研究）

ある事例でのケア内容や利用者・患者との関わりを整理・分析して、ケアの側面、または利用者・家族との相互関係を追及していく研究方法

1．ケーススタディとは何か③

➢ケーススタディ（事例研究）

個別的な事例を題材として、そこから一般化できる事象、また、他の利用者・家族にも適用することのできる援助や理論を導き出すことを目指していく手法

1．ケーススタディとは何か④

➢ケーススタディ（事例研究）

介護福祉士養成教育では

・介護総合演習　・介護過程　の一環として

・事例研究　・実習報告　・ケースレポート

として多くの養成校で取り組まれている手法です。

また

ケーススタディ、卒業研究、介護研究方法

など指定科目外の独自科目として設定している養成校もあります。

1．ケーススタディとは何か⑤

➢ケーススタディ（事例研究）

「事例（症例）検討」との違い

利用者・家族の事例を取り上げ、検査データを集めて整理し、よりよい治療方針やケア方針を検討する。

1．ケーススタディとは何か⑥

➢ケーススタディを行う意義

新しいケアの方法や介護技術や福祉用具が発表

☞ ケアの見直し

☞ よりよい形でケアを利用者・患者に提供

新しい情報の収集、たくさんのデータのまとめ

☞ ケアが成果に結びついているかの検証

☞ 繰り返しが普遍的な技術・理論が確立

1．ケーススタディとは何か⑦

➢ケーススタディを行う中で・・・

Q,学生の疑問「データってなんですか？」

利用者・家族の状態を文字・図・記号・数値で表したもの。変化、正常・異常を可視化するもの。

☞介護学生には、アセスメントツールの利用や、プロセスレコードの作成を指導しています。実習施設で作成されている個人記録（ケース）の閲覧よりも「まず自分で集めた情報」を重視。

ケーススタディの種①

利用者Bさんの行動の意味を考える
どうして、どんな場合、どのような反応？
認知症のある<u>Bさんは不定愁訴</u>がある。

いつでもあるの？
どんな場合に起きるの？
誰といるとき強く訴えるの？

☞ 疑問点や小さな気づきからBさんの全体像を捉える

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

31 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

ケーススタディの種②

まず<u>Bさんを観察していると・・・</u>
・夕方に不定愁訴が起きやすい
☞何故？　職員が近くにいない
Bさん自身やることがない
窓から見える景色から夕刻を感じる
・どんな場合に起きるの？
☞何故？
椅子でうたた寝していて覚醒した直後
職員が忙しそうにしていて落ち着かない
自分ができることがなくキョロキョロ周囲を確かめる

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

32 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

ケーススタディの種③

まず<u>Bさんを観察して少し考えてみると・・・</u>
・どんな場合に起きるの？
☞何故？
椅子でうたた寝していて覚醒した直後
職員が忙しそうにしていて落ち着かない
自分ができることがなくキョロキョロ周囲を確かめる
隣に座っている人が「これで失礼します」という言葉を発した直後

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

33 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

ケーススタディの種④

まず<u>Bさんを観察して考えを深めてみると・・・</u>
誰といるとき強く訴えるの？
☞何故
怒ってばかりいるCさんが近くにいる
落ち着きなく、ポケットや机の周囲を何か探しているDさんがゴソゴソしている
でも、ニコニコしているEさんが傍にいると訴えは激減する

☞例：<u>経験知や実践知で理解</u>をしている
「多分、そうなんだろうな」

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

34 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2．ケーススタディの進め方①

【介護実習の場合】
～テーマを見つけるためにすること①～
➢事例の整理からテーマを見つける
・実習記録を振り返る
・観察に用いられたさまざまなツール
➢実習中の会話・関わりを振り返る
・会話や関わり方
・沈黙　☞メモの振り返り

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

35 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2．ケーススタディの進め方②

【介護実習の場合】
～テーマを見つけるためにすること②～
➢援助と利用者・患者の反応を振り返る
➢受け持ち事例と先行研究との比較分析過去の事例からのヒント（類似・相違）
➢ブレインストーミング
実習中のスーパービジョン
実習後のグループスーパービジョン

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

36 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2．ケーススタディの進め方③

➢食事中にむせこみが多い利用者の場合
・心身状況
（体調・自立度・覚醒・認知度・症状）
・食材（食形態・嗜好・食感）
・温度（食材の適温・室温）
・姿勢（座位保持・足底位置・前傾）
・時間帯（食事前・食事中・食後）
・場所（居室・食堂・静穏環境）

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

37 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2．ケーススタディの進め方④

問題の所在（リサーチクエスチョン）
・むせこみがなくなることで・・・
快適に食事が可能になる
安心して食事を楽しめる
安全が守られ自力摂取が継続できる
食事量が確保できることで、体調良好を促し体力の維持も可能
☞日中の運動量、夜間の睡眠、排便

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

38 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2．ケーススタディの進め方⑤

一般研究の例
データ収集：質的記述的研究デザイン
聞き取り調査：具体的な方法：非構造化面接
同意と説明：調査協力者の同意を得て実施
分析方法：事例コードマトリックス
（1）データ：ICレコーダーの録音の逐語録やメモを元にした調査協力者ごとにデータを作成
（2）逐語録：調査協力者に内容確認の依頼
（3）データ分析：質的研究法
・文節をセグメントとしたオープンコーディング
・事例コードマトリックス
・共通点や相違点の抽出
（4）倫理的配慮　匿名化（個人名や事業所名削除）

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

39 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2．ケーススタディの進め方⑥

【介護実習の場合の倫理的配慮】
・養成校と実習施設との契約（申し合わせ事項）
・学生が個人情報の取り扱いに関する誓約書を実習先に提出
事前学習での丁寧な説明
・実習記録の記録方法
☞アルファベット表記法の徹底指導
・実習後のケーススタディ
☞ルール作り
表記方法：利用者・患者さんをAさん
実習先をB事業所
年齢表記ではなく年代表記　等

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

40 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2．ケーススタディの進め方⑦

プロセスレコードの作成

実習指導者・可能であれば対象となる利用者・患者・家族の同意を得て、プロセスレコードを作成

Aさんとの会話の抜粋
「私は、Cさんが好きなの。あの人の介助が安心なのよ。」
「Dさんの声があまり好きじゃないの。大きいからね。」
「夜勤がEさんになるとトイレは頼めないわ。怒られそうだもん。」
「Fさんは入浴の時はいいけど、トイレの時はカーテンを閉めてくれないから、ちょっと困るのよ。」

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

41 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2．ケーススタディの進め方⑧

作成したプロセスレコードを、文脈性を前提にし、データのセグメント化を行った。

Aさんとの会話のセグメント化の一部
・介助の時に安心感を望んでいる。
・安心できる介助をしてくれる人が好き。
・大きい声が嫌い。
・怒られそうだと思うとトイレ介助は頼めない。
・入浴の時はカーテンは不要。
・トイレの時はカーテンを閉めてくれないと困る。

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

42 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

2．ケーススタディの進め方⑧

作成したセグメント化したデータを、帰納的な性格を持つことを意識し、コーディングを行った。

Aさんのコーディングの一部
【安心感】【遠慮や気がね】
【頼みやすい職員】【羞恥心への配慮】
【苦手な職員の存在】

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

43 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3．ケーススタディの実際

フローシートによる実践例
フローシート（経過一覧表）
ケア、アセスメント、特定の問題の経過
項目を設定し、図や記号など簡潔に状況を記載

日付	2/10	2/11	2/12	2/13	2/14
体温					
チアノーゼ					
喘鳴					
呼吸					
尿					

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

44 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3．ケーススタディの実際

文献研究による実践例
- ある分野の先行研究から知見や課題を見つけだすことを目的としている
- どのような研究をする場合でも自分の研究に必要な文献を読むことや、まとめたりする作業は不可欠
- 文献によるケーススタディ
  文献収集の方法・文献の分析
  まとめ方・整理の仕方

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

45 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

3．ケーススタディの実際

ケーススタディのまとめ方
一般的な構成
タイトル
Ⅰ　はじめに　　Ⅱ　目的
Ⅲ　方法　　Ⅳ　結果
Ⅴ　考察　　Ⅵ　結論
Ⅶ　おわりに（結語）
引用・参考文献
図・表

介護のためのケーススタディ（2）【方法論】

46 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

◆科目１０　学生指導（主な対象：専任）

目的・ねらい	・介護福祉士養成教育における学生指導の意義を理解する ・介護福祉教育の視点から学生理解を深め、今後の学生指導につなげることができる ・学生自身の力を引きだし、課題解決のための行動を学生自身が自ら考え、自ら実践する能力を導き出す
講　師	・溝部　佳子／別府溝部学園短期大学　介護福祉学科
研修概要	(1)概論：　学生指導の意義と視点、その基盤となる学生理解や望ましい人間関係づくりと集団指導・個別指導を示す。さらに、学校全体で進める学生指導等を紹介する (2)「介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査」から課題を抽出し、現在の学生傾向に合わせた学生指導や教員の職業的アイデンティティ（教職アイデンティティ）を学ぶ機会とする
時間数	(1)20 分／(2)40 分　計 60 分
参考文献	・共通 1)「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書　～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・共通 2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・共通 3)「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」 ・「生徒指導提要」文部科学省

私は、これまで人の生活を支えることに興味をもって学びを続け、現在は短期大学副学長と介護福祉学科学科長を務め、組織的な教育の営みについて考えている。今回は、何か困難を抱えている学生ではなく、一般の学生をどのように指導していけばいいのかについて論じる。

ここ数年、中学校・高校への訪問講座に携わり、介護人材育成のための活動をする中で特に感じたことは、中学校での先生方の生徒指導がバラバラであったことに驚き不思議でもあった。

概論では、私自身、今回、学生指導を担当するにあたって、学生指導に関する基本書を探したが見当たらなかった。しかし、中学校での生徒指導の違いを感じてきた私が、生徒指導に関する基本書に出会った。養成校の先生方が出会う学生が今まで受けてきた文部科学省の「生徒指導提要」を紹介し、「生徒指導」を「学生指導」と置き換え、重要なポイントを提示した。**福祉と教育の違いが顕著であった。つまり、福祉はありのままの自分、教育は更なる成長をめざす（教育は、ありのままの自分ではなく、更なる自分を高めることが目標）**。また、学生指導の対象は個人だけでなく集団・学校全体でもあり、学生指導の 3 つの視点①学生理解、②集団指導・個別指導、③学校全体で進める学生指導の中の③について、今回は論じる。

皆様からいただいた、『介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査報告』結果では、学生指導に関連するものが多く抽出され、学生指導について知識を持つことが重要であることや、現在の学生傾向からも、学生は具体的な指導を求めていることから、学生への自己指導能力の育成との兼ね合いや道筋を集団で組織的に具体的に考えていく必要があることが示された。

提案【1】学生指導では、組織的な教育方針の共有・教員集団をつくることが重要である。つまり、「学校全体で進める学生指導」が今の時代に大切で、学校は教育方針に基づいて、今こそ、授業時間外に組織的・計画的に学生指導が必要な時代だと考える。

提案【2】教員の職業的アイデンティティを学ぶ機会を設ける。≪教員個人としての学生指導から組織人としての学生指導へ～介護福祉職を担う人材から介護福祉職を養成する教員への転換～≫教員集団でどのような学生を育てたいのか、どのような教員が求められているのか自問自答しながら、教員集団としてまとまり、公平な役割分担等をすることが大切である。

結論としては、教員は基本理念・集団のまとまりをもって教職アイデンティティを意識し発達させる。それによって、教員は組織的・計画的学生指導に自信をもって取り組むことができ、そういう教員に出会った学生は健全な成長と自己指導能力の育成をめざすことができると確信する。

令和2年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金（社会福祉推進事業分）
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」

介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

主な対象：専任

分野Ⅲ　介護教員講習会の専門分野に関すること

科目10 学生指導

公開期間：令和３年３月３日～１２日

溝部　佳子　／　別府溝部学園短期大学

本科目の目的

- 介護福祉士養成教育における学生指導の意義を理解する。
- 介護福祉教育の視点から学生理解を深め、今後の学生指導に繋げることができる。
- 学生自身の力を引きだし、課題解決のための行動を学生自身が自ら考え、自ら実践する能力を導き出す。

本科目の流れ

（1）	**概論：** 学生指導の意義と視点、その基盤となる学生理解や望ましい人間関係づくりと集団指導・個別指導を示す。さらに、学校全体で進める学生指導等を紹介する。	20分
（2）	「介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査」から課題を抽出し、現在の学生傾向に合わせた学生指導や教員の職業的アイデンティティ（教職アイデンティティ）を学ぶ機会とする。	40分

はじめに

①別府市内8中学校への訪問講座（別府市委託事業）
毎年約750人の中学生にクラス単位で、約6年間
延べ4,500人の中学生に「“福祉”ってなあに？」を実施

②県下の高校への訪問講座
毎年約400人、8～10クラス、4～5高校にて、約5年間
延べ2,000人の高校生に実施

【気づき】義務教育機関でも対応がバラバラ
生徒指導が行き届いているクラスもあれば、雑然としたクラスもあり、学校・担任のカラーが顕著
（例）クラス担任の在り方・関わり方の違い等

概　論

生徒指導提要：文部科学省

- 生徒指導
  学校がその教育目標を達成するための重要な機能
  児童生徒の人格の形成を図る上で、大きな役割
- 生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等
  時代の変化に即して網羅的にまとめた基本書等が存在せず、生徒指導の組織的・体系的な取組が十分に進んでいない
- 生徒指導提要
  教員間や学校間で教職員の共通理解を図り、組織的・体系的な取組を進めることができるようにした学校・教職員向けの基本書

留意点として

- 「生徒指導」を「学生指導」と置き換えられる箇所は置き換え、「学校」は、そのまま「学校」として表記

7 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生指導の意義

- 学校の教育目標を達成する上で学習指導と並んで重要
- 一人一人の学生の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動
- すべての学生のそれぞれの人格のよりよき発達を目指すとともに、学校生活がすべての学生にとって有意義で興味深く、充実したものになることを目指す

8 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

更なる積極的な意義

各学校においては、学生指導が、教育課程の内外において一人一人の学生の**健全な成長**を促し、学生自ら現在及び**将来における**自己実現を図っていくための**自己指導能力の育成**を目指す（学校の教育活動全体を通じ、その一層の充実を図っていくことが必要） ※福祉と教育の違い

9 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

自己指導能力の育成

発達の段階に応じた自己指導能力の育成を図るには、年齢と共に形成されてくる精神性や社会性の程度を考慮し、どの学生にも一定水準の共通した能力が形成されるような**計画的な学生指導が必要**（問題行動など目前の問題に対応するだけにとどめることがないようにする）

※対象は目の前の学生一人一人、問題行動のある学生だけではない

10 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

学生指導の３つの視点

①学生指導の基盤となる学生理解

②望ましい人間関係づくりと集団指導・個別指導

③学校全体で進める学生指導

11 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

①学生指導の基盤となる学生理解

- 学生指導を進めていく上で、その基盤となるのは学生一人一人についての学生理解の深化を図ること（学生はそれぞれ違った能力・適性・興味・関心等を保持）
- 学生を多面的・総合的に理解し、広い視野から学生理解を行うことが大切（学生の生育環境も将来の進路希望等も異なる故）
- 日頃から一人一人の言葉に耳を傾け、その気持ちを敏感に感じ取ろうという姿勢が重要

12 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

②望ましい人間関係づくりと集団指導・個別指導

- 学校教育は、集団での活動や生活を基本とするものであり、学校での学生相互の人間関係の在り方は、学生の健全な成長と深く関わっている
- 学生一人一人が存在感をもち、共感的な人間関係を育み、自己決定の場を豊かにもち、自己実現を図っていける望ましい人間関係づくりは極めて重要
- 個か、集団かといった二分法に陥ることなく、個や集団の状態に応じた指導を行うことが大切

※集団が安定すると個人も安定

13 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

③学校全体で進める学生指導

- 教員一人一人の努力を学生指導の目標の達成につなげるには、学校全体の共通理解と取組が不可欠
- そのためには、学生指導が学校全体として組織的、計画的に行われていくことが必要

※全学生に対する教育の営み、今回は、ここを中心に報告する

14 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

私の疑問

- 中学校・高校での生徒指導は、千差万別
- 「生徒指導提要」は、組織的・体系的な取組を進めることができるようにした学校・教職員向けの基本書であるが、実際に基本書としてどのような位置づけとなっているのか

↓

「生徒指導提要」があるにもかかわらず、その指導内容がバラバラ
実際、先生によって生徒指導が違っていていいのだろうか？
私たち養成校教員は学生指導に対してどうなんだろうか？
自信をもって対応しているのであろうか？

15 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護福祉士養成校における教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査報告

16 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査」

質問3　新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性
（1）そのように考える理由①～④

- 介護老人福祉施設等で勤務していたものが（ご利用者と接していた）、急に学生に対して「教える」「伝える」「指導」は難しい
- 自分が教員として学生に指導していることが、これで良いのかと不安
- 教員が同じ方向を向き、指導内容に差異がないようにするべき
- 教員経験がない場合、教育について指導するだけでないことを意識してほしい

17 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査」

質問3　新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性
（1）そのように考える理由①～④

- 人間的なものは教育の根幹をなすものだと思っています。従って日々の自己研鑽の大切さ
- 教育理念を基本にした学科、特色のある教育方針を共通認識
- 学校・学科の理念を共有し、統一した指導
- 学校教育での指導方法
- 学校の歴史や教育方針の理解度の違いによって、学生指導のあり方に差異
- 大学の理念、方針や学生に関わる教育視点を共有、確認
- 標準化された対応

18 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査」
質問3　新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性
（1）どのような内容が必要か①～③

- 「現代社会における学生指導のあり方」
- 学生指導とは（7か所）
- 学生に対する指導（14か所）
- 大学のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーなどの理解
- 学生と教員の距離感と教員のチームワークの大切さ
- 教員としての心構え（2か所）

19　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

「教育上の課題と求められる研修プログラムに関する調査」
質問3　新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性
（1）どのような内容が必要か①～③

- 学生指導。本校では全学的に様々なFDがあり、学生に対する理解を深めるような研修が行われていたりもします
- 学生の個性や、授業態度、教えるべき項目についての分担について必要
- 教育理念を共有し学科としての方向性、運用方法について連携することが必要
- 本学園の理念、新任教員としての心得
- 理念や指導について

20　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

研修プログラムに関する調査結果

21　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性
（1）どのような内容が必要か

- 学生指導とは（7か所）
- 学生に対する指導（14か所）
- 教育理念を共有し学科としての方向性、運用方法について連携することが必要
- 教員としての心構え（2か所）

22　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

新たに採用した教員に対する研修や講習の必要性
（2）そのように考える理由

- 介護老人福祉施設等で勤務していたものが（ご利用者と接していた）急に学生に対して「教える」「伝える」「指導」は難しい
- 教員経験がない場合、教育について指導するだけでないことを意識してほしい
- 学校・学科の理念を共有し、統一した指導
- 学校の歴史や教育方針の理解度の違いによって、学生指導のあり方に差異
- 標準化された対応

23　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

問題の所在（5点）

- 文部科学省「生徒指導提要」を活用する者は、教員免許を取得した者←①　教員養成教育を満たした者←②
  上述の教員の勤める「学校」は、組織化が図られ←③
  県単位に教育委員会（監視役）が稼働←④
  幼少期から教員を志し、それを目標に歩んできた者が多い←⑤
- 介護福祉士養成校の教員は、教員資格がなくても学校が専門性・資格を認めれば教員となれる（教育力・学生指導力等よりも専門性・資格保持重視の傾向）

授業では、介護・福祉の実務者としての専門能力を育成するが、学生指導では、教員として、社会的資質や自己指導能力を育まなければならない
今日の成長途上にある若者の社会的資質に関する理解

24　公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

現在の学生傾向：新しい学生指導の在り方と実践『まずは学生の生活指導から』大学職員の教育分析

- 単に基礎学力が低いというだけでなく、**意欲が低い**という問題が包含
- 学力は数字で示されることが多く分かりやすいが、意欲は定量しにくい【学力が低く、同時に意欲も低い学生への対応が一番の問題】

↓

- 「大学全入時代」の到来を控え、勉強以前の社会常識や生活態度まで学生に指導する大学が出現　中高生に接するような手取り足取りの指導を行うことが必要
- 「意外にも、口うるさく指導されることを学生も嫌がらない。指導を強化する大学はさらに増えるだろう」と予想
（学生は道をつくりなさいと言われるより、道を示して欲しい）

※先生方の学生はいかがですか？

提案［1］　学生指導では、組織的な教育方針の共有・教員集団をつくることが重要

- 学生を組織人として育成する教育活動に取り組む
- 授業時間外であっても、教員一人一人が違う関わりを行うと、学生は混乱し、先生や学校への信頼関係が損なわれる
- 大学には、４つの教育方針がある

※先生方の学校では、学生の進むべき方向性が明確になっていますか？←みなさん、所属する学校の教育方針を今一度ご確認ください

各々の学校

- アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）
- カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）
- ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）
- アセスメント・ポリシー（学習成果の評価の方針）

アドミッション・ポリシー
（別府溝部学園短期大学：入学者受入の方針）

- 別府溝部学園短期大学は、「自立・自活できる人材の育成」を建学の精神としています。自立・自活できる人材をめざして、変化の激しい社会を生き抜いていくための確かな人間性、どのような社会であっても不可欠な自己分析力、論理的思考力、自己管理能力、個別学問領域を超えたアイディアや洞察力と多面的な問題発見・解決力、そしてそれらを発揮して主体的にかつ協働して課題に取り組め、社会で能力を発揮できる溝部学園ならではの専門性の高い実践力をもつ人の育成をめざしています。別府溝部学園短期大学はこうした目的を理解し、それを達成できる資質をもった人を求めています。具体的には、次のような人を求めています。
- ”別府溝部学園短期大学は、「あなたはこの資格のほかに何ができますか？」という合言葉に表すとおり、積極的に自らの能力向上をめざし、社会に貢献できる人材を期待しています。“

カリキュラム・ポリシー
（別府溝部学園短期大学：教育課程の編成・実施の方針）

- 別府溝部学園短期大学では、その教育目標に基づき普遍的に求められる教養と専門性を備えた有為の人材を育成するために、ライフデザイン総合学科、食物栄養学科、幼児教育学科、介護福祉学科を置き、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成します。
  1. 基礎教育科目をとおして、はば広い教養と豊かな人間性を育成するとともに、心身ともに健康で国際化社会に対応できる人材を育成します。
  2. 各学科が設置する専門教育科目をとおして、専門的な知識や技能の修得を目指し、もって地域社会の発展に貢献できる人材を育成します。
  3. 様々な教育プログラムをとおして、各学科の目指す資格の取得を図るとともに、多様な資格の取得に取り組む意欲のある人材を育成します。
  4. インターンシップ、キャリア教育、各種の実習をとおして、実践的教育を図るとともに、就職支援を行い持続的就業力を持つ人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー
（別府溝部学園短期大学：学位授与の方針）

- 学則第５条に規定する期間在学し、所定の授業料等を納入し、所定の科目及び単位を修得し、次に示す方針に基づいた能力と態度を有するに至った者には、卒業証書及び学位を授与する。
  1）はば広い教養と豊かな人間性を育む努力ができる。
  2）専門的な知識や技能の修得をめざし、もって地域社会の発展に貢献できる。
  3）各学科のめざす資格の取得を図るとともに、多様な資格の取得に取り組む意欲を持つ。
  4）専門性を持った持続的就業力をつけることができる。

アセスメント・ポリシー
（別府溝部学園短期大学：学習成果の評価の方針）

- 別府溝部学園短期大学では、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）：DP」「教育課程の方針（カリキュラム・ポリシー）：CP」「入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）：AP」に基づき、機関レベル・教育課程レベル・科目レベルの3段階で学修成果を査定する方法を定めています。

機関レベル（別府溝部学園短期大学）のアセスメント・ポリシー

学生の志望進路（就職率、資格・免許を活用した進路への就業率など）から、学修成果の達成状況を査定します。

※具体的な検証方法

入学前・入学直後 APを満たす人材かどうかの判定	単位認定・進級判定 CPに則って学修が進められているかの判定	卒業判定・卒業後 DPを見たす人材になったかどうかの判定
・各種入学試験 ・調査書等の記載内容 ・取得資格等	・GPA ・学生生活に関するアンケート ・休学率・退学率など	・卒業率 ・学位授与数 ・就職率 ・卒業時満足度調査

別府溝部学園短期大学 介護福祉学科の基本理念（コンセプト）

元気よく生活支援ができ
人の気持ちに寄り添える
礼儀正しい介護福祉士

個人としての学生指導から 組織人としての学生指導へ

～介護福祉職を担う人材から
（介護福祉職を養成する）教員への転換～

提案［2］ 教員の職業的アイデンティティを学ぶ機会を設ける

- FD（Faculty Development）：学習者を中心とした大学改革を目指して、授業方法やカリキュラム内容を改善・向上させるための組織的取組
- SD（Staff Development）：大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させる
- PD（Professional Development）：大学教職員及び大学組織の職能開発の取組
- ED（Education Development）：教育開発
- AD（Academic Development）：大学開発

私自身の立ち位置（今までの歩み）

- 現在、副学長と介護福祉学科学科長を兼任、多くの学生に教授（約40年間）
- 約20年間介護福祉学科での数多くの教員との出会い、学生を教育しているという同じ立場でありながら、教員の数々のハプニング・不思議に出会い、言葉に窮したことが多々もあった

↓

“学生指導”以前の“教員としての考え方・在り方”への疑問・悩み

教員としての揺らぎを経験；事例（1）～（4）

事例（1）新任時に揺らぎを体験した出来事

《オムニバスの授業》

授業者はA先生。学生は映像教材を視聴中、多くの学生が居眠りをしていた。

【私】「注意をしましょうか？」

【A先生】「学生はもう大人なので、自己責任です。ここは高校ではないのですよ」と大声で返答があった。

結果：その後、学生はそのまま眠っていた。

私は、授業中に起こることは教員と学生の双方に責任があるのではないかと考えた。そのため、他教員に相談をした。その先生は、「教員が何もしないのは教育放棄ですよ」とおっしゃられた。学生である以上、また学習場面ではより一層責任をもち、関与することは大切であることを学んだ。

事例（2）新任時に揺らぎを体験した出来事

《学生相談》福祉視点から教育視点へ

管理職より「学生の相談にのってあげてください」という依頼があった。私は、学生の話を受容し、傾聴した。学生は、他の先生の不満を話していた。後日、管理職の先生に学生より、「『（私）先生にしかもう話をしない』と言われていますよと」伝えられ、私は大変驚いた。学生に話を聞くと、「先生がわかってくれたから」と話し、学生のネガティブな気持ちが高まったようであった。私は、教員として相談にのることは受容、傾聴、共感だけではなく、事実の認識を促したり、俯瞰した捉え方等、思考のサポート・学生自身の振り返りを促すことも必要であることを学んだ。

事例（3）中堅時に揺らぎを体験した出来事

クラス全員が100点の評価であったことを同僚から相談を受ける。

【私】「個別にきちんとした評価が必要と思います」

【B先生】学生たちは入学したての4月に比べると、全員伸びているので全員が100点である。

※結果：全員100点

教員集団で会議し、個人内の比較ではなく、到達基準に応じた評価を求めた。その後は、シラバスの記載を詳細にし、到達基準をわかりやすく学生に提示し、自学習に励む環境を整えた。

事例（4）管理職時に揺らぎを体験した出来事

学生の喫煙後の煙草のポイ捨てにより、発煙が確認された。学生には、ポイ捨てなどがあった場合、喫煙場所が建物より遠い、発火の可能性が低い場所に移動されることを明示していた。教員集団で会議し、喫煙場所を変更することとした。会議で承認されたが、クラスで伝達する際に、C先生が「学生の主体性が大事で、学生に決めさせたい」と突然発言された。

※教員間の見解が異なることで、学生およびクラスに混乱が起こった。分裂や分断の雰囲気が生まれ、学生がそうした視点で教員を眺め、信頼が崩れることで、学ぶことの態度がくずれ、学習効果が薄れた。

気づき

- 福祉視点から教育視点への切り替え
- 援助職から教育職への切り替え
- 不快体験を与えない関わりから、不快体験を乗り越える関わりへの変化

（学生と利用者さんの区別がし難い）

（教育現場に慣れていないため、良い人を演じやすい傾向・嫌われ役ではなく好かれ役を）

（学生・他の教員に優しくすることは良いことだという信じ込み）

（学生に歩み寄りすぎて、彼らの想いに共感し、押し切られたり、曖昧に許したり、諦めたりするので、ブレやすい傾向）

教員研究

教員の職業的アイデンティティ

教員の職業的アイデンティティに着目（教職アイデンティティ）

アイデンティティとは、主体性・自己同一性

背景には「自らがどのような教員であるか」という教員の**自己意識**が大切

教員の教授方法や**職業的発達のあり方、教育現場の変化への反応**等、教職の専門性に関わる様々な**教員の意識・行為を条件付け**る

教員研究

教員の職業的アイデンティティ

教員集団内の教職アイデンティティの確立

同僚の存在が重要な他者として位置づけ

なぜなら教員の仕事の難しさは外部からは理解し難いため、同じ内部者である**同僚からの評価や承認**は、教職アイデンティティの安定化／らぎに大きく関わる

おわりに

学生指導とは、一人一人の学生の個性の伸長を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、さらに将来において社会的に自己実現できるような資質・態度を形成していくための指導・援助であり、個々の学生の自己指導能力の育成を目指すもの

そのために、日々の教育活動においては

①学生に自己存在感を与えること

②学生間に共感的な人間関係を育成すること

③学生に自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること

43 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

“教員の揺らぎ”が“学生の揺らぎ”へ

①**教員同士**で自己存在感を与え合うこと

②**教員集団**に共感的な人間関係を育成すること

③**教員一人一人**に自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること

⇩

「学生指導」につながる

44 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

私の考える学生指導

- 教員としての考え方・在り方（教職アイデンティティ）が問われる。
- 教員集団で話し合いながら、教育方針に基づいて前に進めていくプロセスである。

介護福祉職を目指す学生に対する学生指導

- 教員は介護福祉職アイデンティティを築いてきた自覚を持ちながら、教員としての考え方・在り方を身に付けることが大切である。

教職アイデンティティの醸成・発達

- 教員個人と教員集団アイデンティティの相互作用で構成される。

45 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

最後に、具現化するには・・・

- 「学生指導とは？」をつきつめていくと、教員がどう学生の前で考え・どう立ち振る舞うかが非常に意味がある。
- 学生・学生集団に、学生指導を教員集団で示していくことが大切。
- 教員間でのプロ集団コミュニケーション図る。

＜つながる教員＞＜しつける教員＞という異なる教員役割・集団としての力動等。

46 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

教員：基本理念・集団のまとまり

教職アイデンティティの発達

47 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

教員は組織的・計画的学生指導に自信をもって取り組める

学生は健全な成長と自己指導能力の育成を目指す

48 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

◆科目１１　実習指導方法（主な対象：新任、非常勤）

目的・ねらい	・介護実習の位置づけ（カリキュラムや区分など）を理解する ・介護実習「前、中、後」におけるそれぞれの知識・技術などの指導方法を理解する ・介護実習における多様な学生に対しての効果的な指導を修得する ・巡回指導を非常勤講師に委ねている場合も多くみられ、養成校での指導内容を理解する
講　師	・石岡　周平／町田福祉保育専門学校　介護福祉学科
研修概要	(1) 実習前－実習前準備についての指導（実習の意義・目的、実習施設等の理解、記録の意義・目的・記入方法、実習先との連携、多職種協働、ルールなど） (2) 実習中－実習中の指導について（健康管理、コミュニケーション方法、個人情報、巡回指導［方法・学生の悩み事例］、反省会など） 実習後－実習後の指導などについて（お礼状、実習報告会（振り返り）や反省、評価（自己評価と他者評価）、就職など）
時間数	(1)30 分／(2)30 分　計 60 分
参考文献	・共通 1)「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書　～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した介護教員講習会の教育内容等について～」 ・共通 2)「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」 ・「介護実習指導のためのガイドライン」日本介護福祉士会(2019 年 3 月) ・「介護福祉士養成カリキュラム改正を見据えた介護実習科目の実習指導体制のあり方に関する調査研究事業報告書」日本介護福祉士会(2019 年 3 月)

【授業内容】

■実習前：介護実習の指導をするためには、まず介護福祉士の養成カリキュラムについて理解する必要があります。総時間数 1,850 時間のうち、介護実習は 450 時間です。介護実習には、「実習区分Ⅰ」「実習区分Ⅱ」があり、それぞれに目的や規定などがあります。各養成校は、450 時間の中で様々な期間や日程において介護実習を行なっています。以前からの様々な介護現場における学びだけでなく、新カリキュラムでは「介護過程の実践的展開」「多職種協働の実践」「地域における生活支援の実践」が重視された教育内容となっています。介護福祉士養成に関わるすべての科目が介護実習の準備につながる科目ですが、その中でも「介護総合演習」は、直接的な指導をする科目となり、実習前や実習後の指導はこの科目を通じて行われます。また、介護実習は資格取得時の「求められる介護福祉士像」達成に向けて、介護現場において実践や体験をする場ともいえます。

実習前の指導としては、まず介護実習の「意義と目的」をしっかりと学生に理解させるところからはじまります。そうすることで学生の介護実習に向けての意識が高まり、授業効率も高まることにつながります。介護実習においては、様々な介護現場を経験させることも必要となります。そのため、介護実習で経験する施設や事業所について、様々な種別や特徴などを理解させます。介護実習に向けて事前に「実習目標」を設定し、何を学びたいのか、どんな実習にするのかイメージさせ、実習中はそれを目標に行動していくことになります。介護実習において、最大の難所となるのが「実習記録」で、毎日の実習中に疲れもある中で様々な指導を踏まえて書いていくことは限界がありま

す。できる限り「実習前」に養成校で記録に関する指導をしっかりとしておきたいものです。学生が実習に行く前に、養成校側と実習施設側の規定や実習内容など様々なことを実習施設と連携して打ち合わせておくとよいでしょう。

■実習中：実習中は健康管理をしっかりとしていく必要があります。近年は感染症のリスクもあり、より体調維持が重要となっています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、「健康確認表」などを記入し、健康チェックを行なって実習に臨む必要がでてきています。学生が、介護実習で躓くポイントに「コミュニケーション」「個人情報の管理」などが挙げられます。健康管理も含め、この辺りは実習中だけでなく、実習前から指導をしておくとよいでしょう。巡回指導における規定を理解し、巡回指導に臨みます。巡回指導時に学生が悩む事例などを紹介しています。実習終了時には「反省会」が行なわれ、巡回指導教員が出席する場合もあります。

■実習後：実習終了後には、お世話になった施設、利用者、指導者などに宛てた「お礼状」を書きます。実習はカリキュラムに位置づけられている科目の一つであるため、実習施設が「評価」をつけます。その施設がつける評価だけでなく、自己評価や実習報告会の発表の場などで客観的な反省ができると次の実習や就職後につながります。

※学生の実習が良い学びとなり、充実した実習となるには、実習指導をしっかりと行わなければなりません。各養成校において、細かな規定や実習の位置づけ、日程、指導法などは違いがあります。そのため、非常勤の巡回指導教員や各教員間で連携して、介護総合演習や実習に関連する学生への指導内容なども確認しておく必要があります。

令和2年度生活困窮者就労準備支援事業費等補助金（社会福祉推進事業分）
「介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業」

介護福祉士養成課程の教員の教育力向上に向けたモデル研修

主な対象：新任、非常勤

分野Ⅲ　介護教員講習会の専門分野に関すること

科目11 実習指導方法

公開期間：令和３年３月３日～１２日

石岡　周平　／　町田福祉保育専門学校

本科目の目的

- 介護実習の位置づけ（カリキュラムや区分など）を理解する。
- 介護実習「前、中、後」におけるそれぞれの知識・技術などの指導方法を理解する。
- 介護実習における多様な学生に対しての効果的な指導を修得する。
- 巡回指導を非常勤講師に委ねている場合も多くみられ、養成校での指導内容を理解する。

本科目の流れ

（1）	**実習指導方法Ⅰ** **［介護実習前の指導や準備］**	**30分**
（2）	実習指導方法Ⅱ ［介護実習中や実習後の指導など］	30分

実習指導方法Ⅰ ［介護実習前の指導や準備］

【目次】（30分）
①カリキュラム
②介護実習の意義・目的
③施設・事業所の理解
④目標設定
⑤記録の意義、目的、書き方
⑥実習先（施設・事業所）との連携
⑦多職種協働
⑧地域との連携

介護実習前の指導

①カリキュラム ［介護実習の位置づけⅠ］

介護実習の総時間数＝450時間

【実習区分Ⅰ】

利用者の生活の場である多様な介護現場において、**利用者の理解を中心**とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じた**コミュニケーションの実践**、**多職種協働の実践**、**介護技術の確認**等を行うことに重点を置いた実習。

「実習施設・事業等（Ⅰ）」

（区分Ⅱ）介護実習の総時間数の1／3以上実施すること

【実習区分Ⅱ】

一つの施設・事業等において**一定期間以上継続**して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の**介護過程のすべてを継続的に実践する**ことに重点を置いた実習。

「実習施設・事業等（Ⅱ）」

厚生労働省「介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて」より

①カリキュラム［介護実習の位置づけⅡ］

実習区分による実習施設の規定

【実習区分Ⅰ】
- 介護保険法その他関係法令に基づく基準を満たす施設または事業で、利用者の生活の場である多様な介護現場
- 実習指導者の資格は、介護福祉士資格を有する者、または３年以上の介護業務に従事した経験を持つ者

【実習区分Ⅱ】
- 上記の施設で、介護過程を継続的に実践、指導できる施設
- 実習指導者の資格は、介護福祉士として３年以上の介護業務に従事した経験を持ち、実習指導者講習会を修了した者、その他そのものに準ずる者で厚生労働大臣が別に定める者
- 常勤の介護職員のうち、介護福祉士が３割以上配置されていること
- 実習に関するマニュアル、サービス記録が適切に整備されていること

日本介護福祉士会「介護実習指導のためのガイドライン」より

①カリキュラム［介護実習の日程例］

合計：４５６時間

令和2年度　実習日程

	実習名	実習時期	実習施設(種別)	時間
実習区分Ⅰ	基礎実習A［1年生］	~~令和 2年 6月 8日～ 6月19日~~ 令和 2年 11月 9日～ 11月20日【延期】	特別養護老人ホーム 介護老人保健施設　など	10日 (80時間)
	基礎実習B［1年生］	~~令和 2年10月 5日～ 10月 9日~~ 令和 3年 3月 8日～ 3月12日【延期】	認知症対応型共同生活介護 小規模多機能型居宅介護 通所介護 通所リハビリテーション 知的障害者生活介護 短期入所生活介護 養護老人ホーム　など	5日 (40時間)
	施設実習Ⅰ［1年生］	令和 3年 2月1日～ 2月26日	特別養護老人ホーム 介護老人保健施設 救護施設 身体障害者療護施設 重症心身障害者施設　など	20日 (160時間)
	居宅介護実習	~~令和 2年10月19日～ 12月11日~~ (※この期間中2日間) 【今年度中止⇒代替実習】	訪問介護事業所 (ヘルパーステーション)	2日 (16時間)
実習区分Ⅱ	施設実習Ⅱ(介護過程)［2年生］	令和 2年 8月24日～ 9月18日	特別養護老人ホーム 介護老人保健施設 救護施設 身体障害者療護施設 重症心身障害者施設　など	20日 (160時間)

「町田福祉保育専門学校の日程」

①カリキュラム［介護実習の教育内容］

	教育に含むべき事項	留意点	想定される教育内容の例
介護実習 (４５０時間)	①介護過程の実践的展開	介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ内容とする。	1）実習を通した介護過程の展開
	②多職種協働の実践	多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶ内容とする。	1）実習を通した多職種連携の実践
	③地域における生活支援の実践	対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ内容とする。	1）対象者の生活と地域との関わり 2）地域拠点としての施設・事業所の役割

日本介護福祉士養成施設協会「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」より

①カリキュラム［介護総合演習］※実習の準備科目

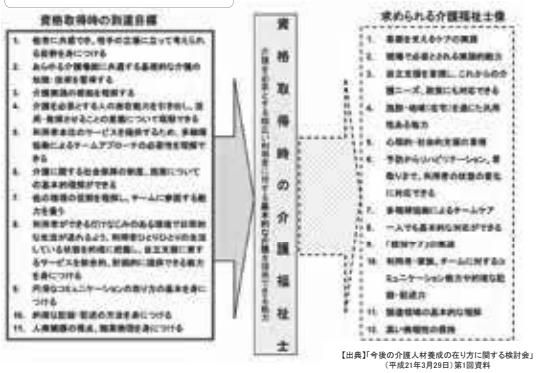
	教育に含むべき事項	留意点	想定される教育内容の例	
介護総合演習 (１２０時間)	①知識と技術の統合	・実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につながる内容とする。 ・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養う内容とする。	1）介護総合演習の意義目的	・各領域で学んだ知識と技術の統合 ・介護観の形成 ・介護実習の枠組みと全体像理解 (実習区分Ⅰ・Ⅱ) (実習施設・事業)など
			2）実習に関する基礎知識	・介護実習の意義目的 ・実習施設・事業の理解 ・実習施設・事業所がある地域の理解、社会資源との関わり ・実習の準備 ・実習目標の設定 ・実習計画の作成 ・実習記録の意義と目的 方法、留意点 ・個人情報の取り扱い ・健康管理 ・実習におけるスーパービジョン
			3）実習の振り返り	・自己評価と客観的評価 ・実習のまとめ、実習報告会などを通じた学びの共有、深化 ・自己課題と展望
	②介護実践の科学的探求	質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解する内容とする。	1）介護実践の研究	・研究の意義と目的 ・研究方法の理解 (質的研究・量的研究 事例研究など) ・倫理的配慮 ・研究内容の発表

日本介護福祉士養成施設協会「介護福祉士養成課程新カリキュラム教育方法の手引き」より

②介護実習の意義と目的Ⅰ

実習では、「実践」「体験」を通して学ぶ

介護福祉士養成の目標



【出典】「今後の介護人材養成の在り方に関する検討会」(平成21年3月29日)第1回資料

②介護実習の意義と目的Ⅱ

専門職として、介護現場の実際を知る

【養成校からみた意義と目的】
- 養成校で学んだ知識・技術の実践と統合化を図る
- 介護過程などから、利用者主体の課題解決能力を養う
- 対人援助職としてのコミュニケーションの実際を学ぶ
- チームケア、多職種協働、地域との関わりなどを学ぶ

日本介護福祉士会「介護実習指導のためのガイドライン」より

教えることは学ぶこと

【実習施設・事業所からみた意義と目的】
- 次世代を担う後継者育成の場となる
- ケアを言語化することで、指導職員などの成長につながる
- 実習生を受け入れることは、社会的に求められる役割

③介護実習の施設・事業所の理解

【高齢者系】
・介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
・介護老人保健施設
・養護老人ホーム
・有料老人ホーム
・認知症対応型共同生活介護
・小規模多機能型居宅介護
・通所介護
・居宅介護　など

【障害者系】
・障害者支援施設
・生活介護
・居宅介護　など

➡ 関連する法律の理解
「介護保険法」
「障害者総合支援法」など

➡ 各種別の特徴などの理解
「規定」「利用者の特徴」など

➡ 施設・事業所ごとの特徴
「A施設」「B施設」
「C事業所」「D事業所」など

④介護実習の目標Ⅰ

『実習目標』を設定する

「何を学びたいのか」を「具体的に」「どのように」
という視点で設定する。

［区分Ⅰ］
・施設の概要と職員の業務内容について理解する
・職員の指導を受けながら、利用者の状態に合わせたコミュニケーションの方法を学ぶ
・職員に同行する中で、様々な利用者に合わせた生活支援技術を学ぶ

［区分Ⅱ］
・日々の利用者との関わりや職員の指導の下、アセスメントし、ニーズに合わせた計画立案、実践、評価ができるようになる

④介護実習の目標Ⅱ

「実習目標」やその他の記録物の
書式などは、

「実習の手引き」
「実習要綱（要項）」 ➡ 各養成校ごとの介護実習に関する「マニュアル」のようなもの

・当該養成校の規定
・様式集
・書き方
・実習施設一覧　　など

④介護実習の目標Ⅲ

「実習計画書」
「ガイドライン」
を作成する養成校 ➡ 実習期間中に、計画書にある学習スケジュールに沿って実習生は、実習を行っていく

「実習計画書」の例

実習期間：令和　年　月　日 ～　月　日（10日間）				実習施設への経路（交通機関）
機別：	実習施設名：			
氏名	住所			連絡先
実習目標				
週	曜日	実習の予定	生活支援技術（特に学びたい点）	巡回指導／報告者指導
1週目	／ 月			
	／ 火			
	／ 水			
	／ 木			
	／ 金			
	／ 土			
	／ 日			
2週目	／ 月			
	／ 火			
	／ 水			
	／ 木			
	／ 金			
	／ 土			

⑤実習記録の意義・目的・書き方Ⅰ

実習記録の意義・目的

・介護実践の証明としての記録となる
・サービスの質の維持、向上につながる
・情報共有ができ、チームアプローチにつながる
・利用者、家族との信頼関係構築につながる

実習記録の書き方

『5W1H』

『専門用語』

【5W1H】
・When 「いつ」（時間）
・Where「どこで」（場所）
・Who 「誰が」（主体）
・What 「何を」（目的となる人や物）
・Why 「なぜ」（理由）
・How 「どのように」（手段）

⑤実習記録の意義・目的・書き方Ⅱ

『客観性』 ➡ 主観で書かない

『叙述体』 ➡ 時系列に沿って書く

「社会福祉士養成課程及び介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しに関するQ＆A」より

記録の時間

「記録の時間」を取らなくてはならないという規定はない。

★毎日の実習の中で、日誌を書く「記録の時間」がある。

『記録の時間を実習時間に入れて差し支えない』となっている。

毎日の日誌を書くのは大変なので、善意で時間を取ってくれている。

（学生の声）
・記録の時間が施設（事業所）によって違う。［30分／1時間など］
・記録の時間がない施設（事業所）がある。

⑥実習施設・事業所との連携Ⅰ

実習指導者

【実習区分Ⅰ】
・実習指導者の資格は、介護福祉士資格を有する者、または３年以上の介護業務に従事した経験を持つ者

【実習区分Ⅱ】
・実習指導者の資格は、介護福祉士として３年以上の介護業務に従事した経験を持ち、実習指導者講習会を修了した者、その他そのものに準ずる者で厚生労働大臣が別に定める者

『実習指導者講習会の修了者』⇒ 1名につき、実習生5名まで受け入れ可能

実習指導者…実習施設・事業所にて「実習生を受け入れる指導責任者」
実習担当者…実習生の「その日の実習を担当する職員」
実習担当教員…養成校などで「実習に関する事前事後指導をする教員」

日本介護福祉士会「介護実習指導のためのガイドライン」より

⑥実習施設・事業所との連携Ⅱ

実習指導者講習会

各都道府県の介護福祉士会や事業者、一部の養成校などで実施している。

【講習会の一例】
・介護実習の現場への期待（1.5時間）
・実習生の理解（2時間）
・介護福祉士養成課程における介護実習の目標と課題（2時間）
・介護実習における実習生への指導方法Ⅰ・Ⅱ（14時間）
・実習指導者に求められるもの（3時間）

［講習会参加者の声］
・多様な学生がいることがわかった
・養成校のことが何となくわかった　など

厚生労働省「介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて」より

《現在の養成校は、多様な学生が在籍》
・学力が不足している学生
・コミュニケーションが苦手な学生
・精神的なものを抱えた学生
・外国人留学生　　など

実習施設と、密にコミュニケーションを取ることが重要

⑦多職種協働

【介護現場で関わる多職種】
・医師、歯科医師
・看護師
・理学療法士（PT）
・作業療法士（OT）
・言語聴覚士（ST）
・管理栄養士
・介護支援専門員
・サービス管理責任者
・相談支援専門員
・児童発達支援管理責任者　など

⇒ それぞれの専門職の役割などをしっかり事前学習しておく必要がある

・ケースカンファレンスへの参加
・各種会議や打ち合わせなどへの参加
・各専門職への同行実習　など

カリキュラムで明示されているように、実習施設へ「多職種連携」「チームケア」の学習機会を依頼する必要がある

⑧地域との連携

【養成校が取り組むべきこと】
・実習施設周辺の地域環境や資源、文化や歴史を事前に学習する
・地域性や実習施設の取り組みなど学習する
・実習終了後は、実習での体験を実習生間で情報共有を行なう

【実習施設が取り組むべきこと】
・通所介護や短期入所の送迎等の機会に、地域環境や資源などの説明
・実習施設での地域行事やイベントなどへ実習生の参加機会をもつ
・施設の地域開放や講座、災害時の地域での役割など学ぶ機会の提供
・施設や介護福祉士などが、地域の課題にどう取り組んでいるか学ぶ

日本介護福祉士会「介護実習指導のためのガイドライン」より

カリキュラムで明示されているように、実習施設へ「地域との連携」につながる学習機会を依頼する必要がある

【参考文献･引用文献】

・「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書　～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した　介護教員講習会の教育内容等について～」
公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（2019年3月）

・「介護福祉士養成課程　新カリキュラム教育方法の手引き」
公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（2019年3月）

・「介護実習指導のためのガイドライン」
公益社団法人日本介護福祉士会（2019年3月）

・「介護福祉士養成カリキュラム改正を見据えた介護実習科目の実習指導体制のあり方に関する調査研究事業報告書」
公益社団法人日本介護福祉士会（2019年3月）

本科目の流れ

（1）	実習指導方法Ⅰ ［介護実習前の指導や準備］	30分
（2）	実習指導方法Ⅱ ［介護実習中や実習後の指導など］	30分

実習指導方法［介護実習中や実習後の指導］

【目次】

［実習中の指導］（２０分）

①実習中の健康管理
②コミュニケーション
③個人情報の管理
④巡回指導の方法
⑤反省会

［実習後の指導］（１０分）

⑥お礼状
⑦実習の評価
⑧実習報告会
⑨就職

介護実習中の指導

①実習中の健康管理Ⅰ

（1）規則正しい生活

実習への
モチベーション
を維持したい

→実習に集中する
→日誌を熱心に書こうとする学生は「寝不足」に
→体力の低下は「感染症」のリスクが

（2）体調の優れないときは「休む」勇気を

→体調不良での介護は、利用者のケガ等のリスク
→感染症の場合、利用者に生命の危機も…
→真面目な実習生ほど、無理をする傾向

介護は、利用者の命を守る仕事!!

①実習中の健康管理Ⅱ

新型コロナウイルス感染症関連の通知

厚生労働省　事務連絡（令和2年4月7日）
「社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について」

別紙 P2
「社会福祉施設等（入所施設・居住系サービス）における感染防止に向けた対応について」

⇒感染者が発生した場合に積極的疫学調査への円滑な協力が可能となるよう、
症状出現 2 日前からの接触者リスト、利用者のケア記録（体温、症状等がわかるもの）、
直近 2 週間の勤務表、施設内に出入りした者等の記録を準備しておくこと。

これに準じていると思われ、実習施設側から
健康観察の実施が求められる。
養成校も健康管理をして実習に送り出すため、「健康管理の記録」を記入する。

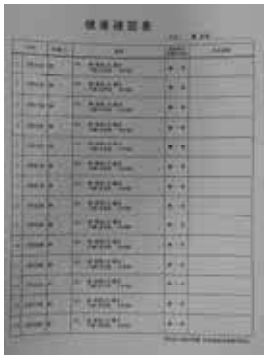
①実習中の健康管理Ⅲ

健康確認表の例

【記録内容】

- **体温**
- **症状の有無**
- **家庭内体調不良者の有無**
- **外出記録（行動記録）**

など



②コミュニケーションに関する指導Ⅰ

（実習生の悩み）
「利用者とコミュニケーションの取り方がわからない」

→認知症の人や聞き取れない場合の対応がわからない
→話が途切れた時の沈黙が怖い

→何を話したらいいのかわからない

［対策］
・利用者の名前を覚える
・利用者の特徴、個性を知る
・対象者（高齢者、障害者）に合わせた話のネタを探る

②コミュニケーションに関する指導Ⅱ

実習施設から指摘されること
「(実習生が)利用者にタメ口で話してしまう」
（崩れた言葉遣い）

→『認知症の利用者などとの会話は、
「敬語」では伝わらない』の誤解

【コミュニケーションの技法】
言語コミュニケーション
非言語コミュニケーション
・表情
・声の大きさや抑揚
・ジェスチャー
・身体的接触
・雰囲気

言葉の使い分けは、かなりの「慣れ」がないと難しい

31 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

③個人情報の管理に関する指導Ⅰ

個人情報保護法

［第2条］ 生存する個人の情報(死者の個人情報は含まない)
①氏名、年齢、生年月日など特定の個人を識別することができるもの
②個人識別符号(購入の際のカードや書類、電子計算機などに供するため、変換して個人を識別できる文字、番号、記号)が含まれるもの
［第3条］ 個人情報は、個人の人格尊重の理念の下に慎重に取り扱われるべきものであることに鑑み、その適正な取扱いが図られなければならない。

社会福祉士および介護福祉士法
（秘密保持義務）
第46条　社会福祉士または介護福祉士は、正当な理由がなく、その業務に関して知り得た人の秘密を漏らしてはならない。社会福祉士または介護福祉士でなくなった後においても同様とする。

介護保険法
（秘密保持義務）
第28条7　指定居宅介護支援事業者等（介護老人福祉施設など様々な種別含む）、もしくはその職員や介護支援専門員またはこれらの職にあった者は、正当な理由なく当該委託業務に関して知り得た個人の秘密を漏らしてはならない。

32 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

③個人情報の管理に関する指導Ⅱ

【実習中に注意すべき点】
(1)日誌や介護過程など、利用者名は「イニシャル」
→実習開始直後は、意識が薄くなっている

(2)記録物の紛失など注意する
→記録物を帰宅途中で紛失したり、
コンビニのコピー機に置き忘れないように注意

(3)実習施設外で、実習に関することを話さない
→行き帰りの公共交通機関などで話さない
→SNS等で、実習に関することを書き込まない

33 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

④巡回指導の方法Ⅰ

【巡回指導とは】
厚生労働省社会・援護局長 通知(平成20年3月28日)
「社会福祉士養成施設及び介護福祉士養成施設の設置及び運営に係る指針について」

9 実習に関する事項
(8)介護福祉士養成施設において介護実習を担当する教員が、実習期間中に各介護実習施設等を週1回以上巡回して、個々の生徒について実習の課題を把握し、当該介護実習施設等における実習目標の達成状況を踏まえ、目標達成のための具体的な方法について指導を行うこと。ただし、これにより難しい場合にあっては、介護実習施設等との十分な連携の下、実習期間中に生徒が介護福祉士養成施設において学習する日を設け、指導を行うこととしても差し支えないこと。**（⇒帰校日）**

［巡回指導教員］
実習は領域「介護」に該当する教育内容であるため、介護教員講習会を修了した専任教員によって巡回指導を行うことが望ましいと考えていますが、それにより難しい場合については、専任教員以外の教員が巡回指導を行うことも可能です。

34 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会　「社会福祉士養成課程及び介護福祉士養成課程における教育内容等の見直しに関するQ＆A」より

④巡回指導の方法Ⅱ

【学生の相談内容例】
（1） 実習担当者によって言うことが違う

（2） 学校と現場の違い

（3） 介助が怖い

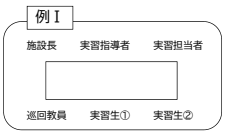
（4） お菓子をもらった

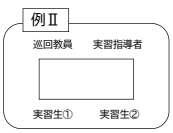
（5） 職員から個人的に連絡先を聞かれた

35 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

⑤反省会（スーパービジョン）

【反省会とは】
→実習最終日などに、実習期間を振り返っての反省や今後の課題などを明確にするために行われる。





※ 巡回教員は反省会に出席できないこともある。

反省会の進行例
① 開始の挨拶
② 実習生の反省
③ 施設職員等からのコメント
④ 巡回教員からのコメント
⑤ 実習終了にあたっての事務確認 等

・実習生が司会を任される実習施設もある
・実習生の反省は、実習前に立てた「目標」に沿って話すとよい。
・記録物の提出方法などについて確認
・宿泊や施設の食事を利用していた場合は清算する

36 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会

介護実習後の指導

⑥お礼状の作成について

【お礼状】
→日々の生活を見せてくれた利用者に、
多忙の中指導してくれた指導者、受け入れてくれた施設へ
感謝の気持ちを伝える。

・新卒の学生などは、「手紙」を書いた
経験が少ない

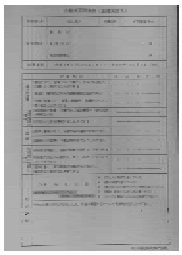
・手紙の文章だけではなく、
封筒の書き方、切手の買い方なども
指導する必要がある

⑦実習評価Ⅰ

【実習施設の評価】
⇒「区分Ⅰ」「区分Ⅱ」によって評価する項目は違う。
各養成校で定めた「評価表」を実習施設が記入する。

【評価内容】
- **基本姿勢**
- **実習施設の理解**
- **利用者の理解**
- **生活支援技術**
- **コミュニケーション**
- **介護過程（区分Ⅱ）**
- **多職種協働の理解**
- **地域との連携の理解**

など



⑦実習評価Ⅱ

【自己評価と他者評価】
・自己評価⇒実習生自身がする評価
・他者評価⇒実習施設がする評価

実習生に
自己評価を
させたい

自己評価と他者評価に「違いは出るもの」だが、
これを近づけることができれば、将来に役立つ。

・近年の学生は「自己評価」が極端
→すごく低い（自信がない）、すごく高い（客観性がない）

・他者評価（実習施設の評価）もバラつきがある。

⑧実習報告会

【実習報告会や振り返りの場のメリット】

・実習生の学びの振り返りにつながり、客観的に課題を
捉え、今後の成長につながる。

・他の実習生の報告や振り返りを聞くことで、
自身の反省にもつながり、新しい発見も得られる。

・養成校での学びと、実習施設での学びを統合する
機会になる。

⑨実習施設に就職を誘われた場合

【実習施設に就職を誘われた】
・実習生も実習施設に「就職を希望している」場合は、
実習指導担当者や採用担当者、養成校の就職担当者など
と連携して進める。

・実習生が実習施設に「就職を希望しない」場合は、
実習生の不利益とならないように、お断りする。

実習施設に、当該養成校の卒業生が増えると、
養成校と実習施設の連携も取りやすくなり、
実習も充実したものになる傾向がある。

【参考文献・引用文献】

・「介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業報告書　～介護福祉士養成課程のカリキュラム改正に対応した　介護教員講習会の教育内容等について～」
公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（2019年3月）

・「介護福祉士養成課程　新カリキュラム教育方法の手引き」
公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会（2019年3月）

・「介護実習指導のためのガイドライン」
公益社団法人日本介護福祉士会（2019年3月）

・「介護福祉士養成カリキュラム改正を見据えた介護実習科目の実習指導体制のあり方に関する調査研究事業報告書」
公益社団法人日本介護福祉士会（2019年3月）